

～ 新しいつながり ささえあうまち 我孫子 ～

第6次我孫子市地域福祉活動計画

(令和4年度～令和8年度)

中間評価報告まとめ

基本理念：安心とゆとりのまち 住み続けたいまちづくり

目次

- ・ 第6次我孫子市地域福祉活動計画 中間評価報告まとめ・・・P1
- ・ 市社協 中間事業評価一覧・・・P5
- ・ 地区社会福祉協議会 中間評価・・・P13

令和7年3月18日
社会福祉法人
我孫子市社会福祉協議会
会長 鈴木 壽幸

我孫子市社会福祉協議会 進捗評価表

基 本 目 標	A：十分 できた	B：概ね できた	C：あまりでき なかった	D：取り組め なかった
1. 広げよう、つながりの輪	43%	39%	17%	0%
2. 学び、理解し、共にあゆむ	36%	55%	9%	0%
3. 支援が必要な人たちを支える	29%	57%	14%	0%
4. 一人ひとりが参加できる仕組み づくり	36%	61%	3%	0%
5. 安心と安全を守る取り組み	0%	50%	50%	0%
全 体	34%	54%	12%	0%

■■今後の重要・拡大事業■■

- ボランティア育成事業
- 生活支援体制整備事業（市委託事業）

地区社会福祉協議会 進捗評価表

地 区 社 協	A：十分 できた	B：概ね できた	C：あまりでき なかった	D：取り組め なかった
我孫子北地区社会福祉協議会	67%	15%	4%	14%
我孫子南地区社会福祉協議会	78%	20%	2%	0%
天王台地区社会福祉協議会	67%	21%	9%	3%
湖北・新木地区社会福祉協議会	65%	20%	5%	10%
湖北台地区社会福祉協議会	68%	6%	3%	23%
布佐地区社会福祉協議会	57%	16%	0%	27%
全 体	67%	15%	4%	14%

■■今後の重要・拡大事業■■

- 出張茶話会
- ぶらり散策
- こほく・あらき福祉まつり
- 高齢者見守り事業 いきいき塾
- 湖北台敬老お楽しみ会
- 見守りネットワーク推進事業
- 健康マージャン教室
- スマホ教室

【1】全体の進捗状況

社協全体の進捗評価は、A（十分できた）とB（概ねできた）の合計が88%で、また、地区社協全体でも82%であり、当初の計画のとおりに『地域福祉を推進』が着実に実行できている。

参考1) 全体の進捗割合

市社協・ 地区社協全体	A：十分できた	B：概ねできた	C：あまりできなかった	D：取り組めなかった
	59%	25%	6%	10%

各地区社協で、C（あまり取り組めなかった）やD（取り組めなかった）があるが、C評価の事業については、当初の目的と地域課題が合わなくなった、利用者が減少したため開催方法を検討する必要があるなどの課題がみられた。また、D評価の事業については、担い手不足により取り組めなかった、他団体が似た事業を展開していることから必要性がみられないなどの理由があった。

まちづくり協議会や自治会と共に新規事業の検討をしたが、実施には至らなかったという事業も複数みられた。その他、高齢者のICT活用についてのニーズがみられ、市社協及び各地区社協でスマホ教室の開催が増加した。

参考2) 活動方針（地区社協）と支援方針（市社協）の評価

団 体 名	方針の事業数(延べ数)				
	A	B	C	D	合計
我孫子北地区社会福祉協議会	9	4	0	2	15
我孫子南地区社会福祉協議会	16	2	1	0	19
天王台地区社会福祉協議会	22	7	3	1	33
湖北・新木地区社会福祉協議会	11	2	2	3	18
湖北台地区社会福祉協議会	12	3	1	1	17
布佐地区社会福祉協議会	17	5	0	8	30
地区社会福祉協議会 全体	87	23	7	15	132
我孫子市社会福祉協議会	18	26	8	0	52
合計	105	49	15	15	184

【2】今後の取組み

地区社協の評価見直し作業の中で、コロナ禍後の新規事業として、顔の見える関係づくりを目的に事業（出張お楽しみ昼食会など）を立ち上げている。また、高齢者の ICT 活用について知りたい、利用したいというニーズがみられ、市社協および各地区で「スマホ講座」の開催に着手している。市社協のスマホ教室は、月 2 回テーマを決めて募集をしており、毎回定員を超える予約の申し込みをいただいている。各地区社協でも開催を増やす検討をしており、講師の人材の確保が課題とされている。

また、「委員の担い手不足（委員の高齢化）」などの課題があるとともに、地域のニーズや情報把握・共有のために多職種との連携の重要性についても挙げられた。地域活動を支える担い手の高齢化については、少子化・核家族化が進み、生活様式が多様化していることで、地域のつながりが希薄化し、活動の担い手や活動の規模が縮小している現状がある。

今後は目標 1 の活動方針 3「関係機関とのつながりを支援します」を推進し、他機関との協力関係の強化を図り、事業を遂行しやすくすること。また、目標 4「一人ひとりが参加できる仕組みづくり」の活動方針 1「ボランティア・市民活動ができる場を提供します」を推進し、地区社協活動やボランティア活動に参加できる機会を増やすとともに、地域資源（人材）の発掘などの取組みが重要と思われる。市社協でも地区社協と関連機関や多職種とのコーディネート、福祉ネットワークの構築、ボランティア参加の促進など地区社協活動に協力いただける担い手の募集・調整を、より一層支援する必要がある。

市社協 中間事業評価一覧

1. 広げよう、つながりの輪

支援方針	事業番号	市社協の主な支援事業	進捗評価	地域への影響（成果）	今後の課題	今後の評価
支援方針1 交流の場に関する情報提供、仲介などの支援をします	3-7	福祉行事備品貸出事業	A	・自治会にパンフレットを配布したことで、地域の認知度は上がった。 ・地区社協や自治会等、よく貸出をする団体に聞き取りを行い、綿あめ機やかき氷機等、おまつりの道具などのニーズがあることが確認できた。	・まったく貸出がない備品については、リストから削除するか今後検討する必要がある。	推進
	4-3	我孫子市子ども食堂ネットワークの支援	B	・立ち上げ支援講座に25名参加していただいた。興味を持つ人は多い。 ・講座を受講した方の中で、立ち上げには至らなかったが、別のきっかけで興味を持たれた方に対して支援を行い、3団体の子ども食堂へ立ち上げ支援を行った。	・講座を受講した方で立ち上げに至らなかった反省点を踏まえ、講座内容についてアンケートを行い内容を調整する。 ・参加者の中には、「場所の提供」「運営したい」など目的の違う人が混在しているため、参加者同士の交流の場を設けることで繋がりができるよう支援したい。	推進
	4-4	我孫子市子どもの学習支援ネットワークの支援	B	・当初は塾に通うことのできない困窮世帯を対象としていたが、自身の居場所として教室を利用する方もいる。	・関係者間では当初の目的から第3の居場所づくりへ目的を変遷させるべきなのでは、といった声が上がっている。	推進
	6-1	福祉ショップ&軽喫茶ほぼら	B	・バリアフリーの喫茶店を駅近で展開することにより、地域の人々に交流の場を提供することができた。 ・障がい者福祉施設と連携して福祉ショップを運営することで、地域の人々に障害に関わる事業所を知るきっかけづくりを行った。	・実習の受け入れについては、今後も特別支援学校や関係各所へのPRを継続することで、募集していく。	推進
	6-2	集いの場コミュニティカフェ事業	A	・参加者から家族会へ紹介をいただく等、当事者間でのつながりを作ることができた。 ・定期的なアンケート等実施し、参加者のニーズを聞き取り、以降の企画に反映させることができた。	・café つぼみは当事者以外の参加企画の検討が難しいため、今後も補聴器の試用や相談、難聴体験等のイベント開催を検討していく。	推進
	6-6	あびこカッパまつり（参画事業）	A	・にじプログラムなど、他事業からの働きかけで興味を持たれる方もいた。	・あくまでも参画事業であるため、参画団体の発掘を主導することができない。主体団体をどのようにサポートしていけるのが課題。	推進
支援方針2 生きがい、仲間づくりを支援します	3-2	ささえあい活動推進事業	B	・精神疾患をお持ちの方を対象としたサロンを1団体、子ども食堂3団体の立ち上げ支援をした。	・現在は市社協の会員団体に対して助成申請を募集しているが、今後は対象を拡大していく予定。	推進
	9-3	西部福祉センター（市指定管理事業）	C	・令和6年度末で事業が廃止となることから、現在利用されている方には「つつじ荘」の紹介をしている。		廃止

支援方針3 関係機関とのつながりを支援します	3-1	生活支援体制整備事業（市委託事業）	A	・地区社協連絡協議会等で事業の説明を行い、地区社協のささえあい活動や自治会、マンション内での助け合い組織など、少しずつではあるが生活支援サービス提供団体が増えてきている。	・民生委員や自治会長等、地域で活動されている方々との連携を図るため、民協や地区社協の活動に参加していく。	拡充
	3-4	福祉施設支援事業	C	・マルシェの立ち上げ支援を行い、福祉施設や企業と地域住民の交流の場を作ることができた。	・求人やボランティアに関する情報を提供できるようにするため、どのような支援が求められているのかアンケート調査を実施していく予定。	推進
	5-6	あびこ福祉バザー（参画事業）	C	・コロナ期間中に三密を避けるため、開催を見送っていた。令和4年度に主催団体にアンケート調査を実施。今後は各地区で規模を縮小して開催することになり、令和5年度をもって廃止となる。		廃止
	6-2	集いの場コミュニティカフェ事業	A	・広報紙を毎月発行し、関係各所へ送付。事業の認知度向上に努めた。	・ICT支援事業所および市内の講座等の情報収集を行い、潜在ニーズへの対応として、café全般、講座やイベント等の周知の仕方を検討する。	推進
	6-3	あびこ福祉まつり（参画事業）	B	・参画団体の減少がみられる原因として打ち合わせにかかる負担が挙げられたため、協議体の在り方を検討、回数を減らす方向で調整を行った。	・他イベントと日程が重なったり、コロナ禍の影響もあり、減少傾向となっているが参画団体からは事業継続が望まれているため開催規模を含め、今後の在り方を検討する必要性がある。	推進
	6-4	ホップステップふれあいキャンプ（参画事業）	B	・野外活動を通じて、障がい者とボランティアの交流を深めることができた。	・関わりが難しい障がいの方にボランティアの方が段階的に関われるよう配慮が必要。	推進
	6-5	JOY！JOY！クリスマス会（参画事業）	A	・障がいがある方もそうでない方も、分け隔てなく広く参加を呼び掛けることで、障がいにとらわれない、地域共生社会の推進に努めた。	・実行委員の減少が懸念されているため、呼びかけを継続していく。	推進
	6-6	あびこカップまつり（参画事業）	A	・参画団体の担い手不足があったが、ボランティア派遣にて人手不足を解消することができた。	・参画事業であるため、主体となる実行委員に対してどのようにサポートしていくのが課題。	推進
	7-7	高齢社会への対応を探る会（参画事業）	A	・地域高齢者の困りごとについてまとめ、市の関係各課へ伝えた。	・地区の中では対応しきれないことが多く、市内全域で福祉サービスや医療など情報共有する必要がある。	推進
支援方針4 福祉に関する調査や情報を提供します	3-1	生活支援体制整備事業（市委託事業）	A	・日常の買い物に困っている地域の皆さまから寄せられた要望に応え、移動スーパーを開始。	・地域によって、移動販売についての情報が行き渡っていないことがわかったため、情報の周知が必要。	拡充
	3-3	自治会活動推進事業	C	・自治会活動情報誌で「防災で地域をつなぐ先進事例」や近隣の疎遠化による見守りの困難を解決する仕組みを紹介した。	・役立つ情報の提供に努めたが、社会情勢によって変容する生活課題にはその都度対応が求められることもある。	推進
	6-1	福祉ショップ&軽喫茶ほぼら	B	福祉ショップを運営することで、地域の人々に障がいに係る事業所を知るきっかけづくりを行った。	・インターネット販売は、費用や運営管理が難しい等の理由により見合わせとなり、今後はホームページ上で紹介していく方向で調整する。	推進
	9-1	広報・地域福祉情報提供事業	B	・わかりやすい言葉選びと見やすさにこだわること、地域の方に必要な福祉サービスの情報が提供できるよう配慮した。	・地域の方にとって有益となる情報のリサーチ方法等の検討。	推進
	9-2	ホームページ情報提供事業	A	・各事業担当者へ聞き取りを行い、近況やPRしたい活動内容等、情報を収集し載せることができた。	・SNSの活用方法。	推進

関連する福祉事業					
市社協の主な支援事業		進捗 評価	地域への影響（成果）	今後の課題	今後の 評価
7-6	我孫子市結婚相談所（あび♡こい♡ハート）	B	・出会いの場としてイベントを数多く開催し、成婚には至らないものの、数多くのカップルを成立させることができた。 ・仕事をしている方でも登録しやすくなるよう、LINEを活用し、連絡が取りやすい環境を設定した。	・成果目標が成婚組数であるため、実績は上がっていない。交際に発展する男女は多いため、ニーズはあると思われる。	縮小
			A:十分できた : 8事業 B:概ねできた : 7事業 C:あまりできなかった : 4事業 D:取り組みなかった : 0事業	「拡充」…拡大、充実させる事業 : 1事業 「推進」…今後も必要な事業 : 16事業 「結合」…他事業と合わせて事業展開 : 0事業 「縮小」…目標を達成している : 0事業 「廃止」…事業終了 : 2事業	
			延べ事業合計数 : 19事業	延べ事業合計数 : 19事業	

2. 学び、理解し、共にあゆむ						
支援方針	事業番号	市社協の主な支援事業	進捗評価	地域への影響（成果）	今後の課題	今後の評価
支援方針5 学習の場を支援します	3-3	自治会活動推進事業	C	・社協説明会を実施。社協サービスや貸出備品等を周知することで、活動に生かしてもらえるよう努めた。	・自治会のニーズを把握するために、コーディネーターが会議に出席するなど働きかけが必要。	推進
	3-6	健康・介護予防活動支援事業	B	・講師（職員）の交代があったが、大きな混乱もなく、受講者も増えてきている。	・講師派遣だけでなく、講師育成の実施を検討。	推進
	3-7	福祉行事備品貸出事業	A	・高齢者疑似体験セットの貸出が増え、小中学校の福祉教育に貢献できている。	・よく貸出をする団体へ聞き取りを行い、ニーズのある貸出備品を調べ今後を検討する。	推進
	4-1	福祉教育推進事業	B	・知的障がいのある方への接し方や認知症サポーター養成講座など、ほぼすべての市内の小中学校で福祉教育を実施することができた。	・学校の先生向けの説明会やチラシ等の作成を行う。	推進
	7-7	高齢社会への対応を語る会（参画事業）	A	・令和4年度、5年度のイベントアンケートでは満足度の高い結果を得ることができた。	・市内全域でどのような福祉サービス、医療機関、移動支援があるのか情報共有が必要。	推進
支援方針6 福祉教育を推進します	4-1	福祉教育推進事業	B	・知的障がいのある方への接し方に講座や認知症サポーター養成講座を含めると、ほぼすべての市内小中学校で福祉教育を実施することができた。	・市内の学校の理解と協力を得るための説明会開催を検討する。校長会にも働きかけをしていきたい。	推進
	6-1	福祉ショップ&軽喫茶ほほら	B	・市内の障がい者施設と連携して福祉ショップを運営し、地域住民に障がいに関わる事業所を知るきっかけづくりを行った。	・実習の受け入れについては、今後も特別支援学校や関係各所へのPRを継続することで募集していく。	推進
	6-3	あびこ福祉まつり（参画事業）	B	・サブタイトルを付け、「みんなでつくる街、ともに生きる街」を活かして、地域共生社会の推進を促した。	・来場者の伸び悩みがあり、原因として子どもの催しが少ないことが挙げられるため、内容をより検討をしていく。	推進
	6-4	ホップステップふれあいキャンプ（参画事業）	B	・野外活動を通じて、障がい者とボランティアの交流を深めることができた。	・担い手の募集を行ったが、学生の参加が少なく、常に不足している。	推進
	6-5	JOY! JOY! クリスマス会（参画事業）	A	・障がいの有無にとらわれず、参加を呼びかけ、地域共生社会の推進を行った。	・実行委員の減少が懸念されるため、大学やボランティア団体への呼びかけを継続していく。	推進
	7-7	高齢社会への対応を語る会	A	・イベントを開催し、アンケート結果は満足度の高い結果となった。	・関心を持ってもらい、その後の行動に移してもらえるよう多角的な働きかけを検討していく。	推進
				A:十分できた : 5事業 B:概ねできた : 3事業 C:あまりできなかった : 1事業 D:取り組みなかった :	「拡充」…拡大、充実させる事業 : 9事業 「推進」…今後も必要な事業 : 9事業 「結合」…他事業と合わせて事業展開: 9事業 「縮小」…目標を達成している : 9事業 「廃止」…事業終了 : 9事業	
				延べ事業合計数 : 9事業	延べ事業合計数 : 9事業	

3. 支援が必要な人たちを支える						
支援方針	事業番号	市社協の主な支援事業	進捗評価	地域への影響（成果）	今後の課題	今後の評価
支援方針7 見守り活動を支援します	3-2	ささえあい活動推進事業	B	・立ち上げマニュアルをホームページにも掲載し、興味がある人がいつでも閲覧できるようにした。	・事業周知が不足しているため、どのようにPRしていくのが課題。	推進
支援方針8 住民による生活支援を推進します	3-1	生活支援体制整備事業（市委託事業）	A	・2層生活支援コーディネーターと担当地区の居宅介護事業所を訪問し、困ったときガイドの周知と顔の見える関係づくりを行った。	・生活支援コーディネーターとしてどこまで関わるべきなのか、線引きが明確ではない。	拡充
	3-2	ささえあい活動推進事業	B	・令和4年度にささえあい活動推進事業実施規程を作成し、自治会の生活支援サービス団体等へ助成金の交付を行った。	・実施団体へのアンケートにて、会場の確保や担い手不足等の課題が挙げられ、どのように対応をしていくのが課題。	推進
	3-5	地域福祉活動団体助成金交付事業	A	・令和4年度に規程の見直しを行い、必要な団体に適正な助成が行えるようにした。	・配分委員会を設置予定。やり方が変わるため助成申請の時期および方法について検討が必要。	推進
	4-3	我孫子市子ども食堂ネットワークの支援	B	・立ち上げ支援講座に25名の方が受講されており、興味を持つ方は地域に多い様子であった。	・立ち上げ支援講座のカリキュラムでは一日で終えられないため、複数回のゼミ方式にやり方を変更する等の検討が必要。	推進
	4-4	我孫子市子どもの学習支援ネットワークの支援	B	・研修会を実施し、学習支援について興味がある方が地域にいることがわかり、その方たちの教室立ち上げ支援を行うことができた。	・当初のコンセプトから、第3の居場所づくりへ目的を変遷させるべきとの声があり、必要な情報の収集や活動の支援をしていく。	推進
	7-1	住民参加型助け合いの会 あい・あびこ	A	・協力会員に対して、研修を実施し資質向上を行った。 ・短時間サービスのニーズがあり、令和7年度より30分以内で支援を行うサービスを新たに導入し対応した。	・地域ごとの登録者数にばらつきがあり、地域内でのマッチングの難しいケースがある。	推進
	7-2	移送サービス事業	A	・利用件数は目標より大きく上回り、今後も更なる需要が見込まれている。	・運転ボランティアの担い手不足について継続した取組が必要となるため、インターネット等の活用も検討していく。	推進
	7-3	傾聴ボランティア派遣事業	B			結合
支援方針9 寄付、募金運動を普及、推進します	4-2	制服リサイクルバンク事業	A	・教育機関や各地区の福祉団体へチラシの配布等、ひろく周知したことで、寄付および譲渡どちらも件数が多くなった。譲渡についても制限をなくしたことから、多くの世帯へ渡すことができた。	・問い合わせも多く、地域の需要が見込まれる。収益がないため、どこまで事業を拡大できるのか課題となっている。	推進
	5-1	寄付金・寄付物品の相談窓口	B	・令和5年度に寄付金取扱規程を整備したことにより、事業別に細分化して寄付を受けられるようになった。	・寄付金や寄付物品について、どのように活用するかを地域住民へわかりやすく周知する方法を検討する。	推進

支援方針9 寄付、募金運動を普及、推進します	5-2	福祉募金自動販売機設置事業	C	・地域住民に気軽に募金ができる仕組みを提供できた。	・新たな寄付付き商品の仕組みを検討していく。	推進
	5-3	赤い羽根共同募金（千葉県共同募金会 我孫子市支会）	B	・令和6年1月の能登半島地震災害発生時、災害義援金の対応を迅速に行うことができた。	・自治会に募金の使い道について説明を行ったが、直接的な還元がないことから協力的になれないとの意見もあった。理解と協力を得られるよう説明会について工夫を凝らしていく。	推進
	5-4	歳末たすけあい募金（千葉県共同募金会 我孫子市支会）	A	・助成について、申請の簡略化を行い、インターネットからでも申請できるよう対応。	・募金件数は協力自治会の数によって変動するため、各自治会に募金の使い道や減額することでの地域への影響について丁寧に説明し、理解を求めていく必要がある。	推進
	5-5	仮称）お助けバンク事業	A	・我孫子市子ども食堂ネットワークと連携し、子ども食堂へ食材の寄付を行った。 ・さまざまな媒体で広報を行ったことで、事業の認知度と比例して、寄付件数も増加している。	・直接食料を受けに来られない世帯については、民生委員を通じて配布する等の柔軟な対応が必要。	推進
	5-6	あびこ福祉バザー（参画事業）	C			廃止
	6-1	福祉ショップ&軽喫茶ほぼら	B	・能登半島地震にかかる災害義援金や共同募金等の募金活動に協力した。	寄付、募金の流れがわかりやすいな見せ方や、寄付等がしやすいような工夫を検討していく。	推進
支援方針10 福祉施設や福祉団体に関する情報提供、仲介など地域とのつながりを支援します	2-3	介護保険ボランティアポイント制度（市委託事業）	B	・民生委員児童委員への普及啓発、定年退職者へボランティア活動啓発講座の実施をすることで、地域の認知度は上がってきている。	・活動者の減少がみられるため、地域貢献の意義や社会とのつながりという点を強調し、活動に興味を示してもらえような方法を検討する。	推進
	3-4	福祉施設支援事業	C	・福祉施設と企業、地域住民がつながるマルシェの立ち上げをコーディネートした。	・福祉施設の就職説明会の実施や求人情報の発信など、今後福祉施設の求人支援をどのように進めていくか検討が必要。	推進
	4-3	我孫子市子ども食堂ネットワークの支援	B	・講座受講者の中から立ち上げを希望する方はいなかったが、別のきっかけで興味を持たれ、立ち上げを支援することができた。	・受講後も立ち上げをしやすいようなフォローアップができるように検討したい。	推進
	4-4	我孫子市子どもの学習支援ネットワークの支援	B	・地域の学習支援について研修を行ったところ、興味のある方がいてその方達が主体となって教室を立ち上げる支援を行った。	・当初のコンセプトから第3の居場所作りへ目的の変遷させていくべきとの声があるため、適切な情報を提供していく。	推進
	6-1	福祉ショップ&軽喫茶ほぼら	B	・福祉施設の製品ギフトカタログの販売を、令和7年3月に開始。	・福祉ショップ製品のインターネット販売は難しいことから、ホームページ上で製品の紹介をしていく方向で調整中。	推進
	6-3	あびこ福祉まつり（参画事業）	B	・主催団体や参加団体へ開催に関するアンケートを実施し、事業継続の声が多くなったため、規模の縮小して令和5年度より開催することができた。	・新しい企画の考案やどのように新規参画団体を募っていくか等の検討。	推進

		関連する福祉事業	進捗 評価	地域への影響（成果や課題）	今後の課題	今後の 評価
	3-8	我孫子市民生委員児童委員協議会（市委託事業）	A	・善意銀行やたすけあいバンクの集荷、配布、また貸付相談や歳末たすけあい等、他の事業についても理解と協力をいただくことで、地域の困窮世帯等の支援を連携して行うことができた。	・委員にアンケートをとり、どういった情報が必要なのか、何について学びたいのかを把握し、提供していく。	推進
	3-9	我孫子市遺族会（市委託事業）	B	・広報等で会の概要を周知、新規会員募集を行うことで、地域の方にPRしている。	・戦争を知る世代が減少したことにより、語り手の不足がある。今後の世代にどのように伝えていくのが課題。	推進
	7-4	車イス等貸出事業	B	・本来は来所いただいで貸出であるが、取りに来られない方にお届けをした。	・チャイルドシートの貸出について検討していたが、衛生面の管理が難しいこと等から以前市で行っていたが、利用者が少ないかった。そのため実施を見送りとした。	推進
	8-1	あびこ後見支援センター	B	・後見受任件数は緩やかに増加傾向であり、需要がうかがえる。 ・市役所各課や専門職から法人後見受任の相談もあり、連携して対応している。	・通常業務以外の専門的な対応について苦慮することがある。今後も都度、顧問弁護士や裁判所、市役所各課と連携、相談しながら対応していく。	推進
	8-2	日常生活自立支援事業（県協委託事業）	B	・生活支援員の確保については、ホームページ等でPRし、人材の確保をしている。支援員は充足している。	・市役所や居宅介護支援事業所等からの紹介が多く、自分自身で金銭管理が難しくてもサービス利用の必要性を考える方は少なく、ニーズの潜在化がうかがえる。	推進
	8-3	身元保証人代行サービス	C	・現在検討中の（仮称）遺言執行人業務と事業を統合し、令和7年度より実施予定。	・地域の方から、入院や施設入所の際、身元保証人になってくれる人がいない等の相談の問い合わせが増えてきている。	結合
	8-4	（仮称）遺言執行人業務	C	・現在検討中の身元保証人代行サービスと事業を統合し、令和7年度より実施予定。	・遺言書の作成や自身が亡くなった後の死後事務について、相談の問い合わせが増えてきている。	結合
	8-5	生活福祉資金貸付事業（県協委託事業）	A	・多課題を抱える世帯で、本事業のみで対応が難しい世帯については、日常生活自立支援事業などの他事業と連携して対応を行った。	・償還が難しい世帯への対応については、行政と連携して生活相談や支援を行う等の方法を検討していく。	推進
	8-6	善意銀行 小口貸付事業	A	・一時的に貧困した世帯に対して貸付をすることで、生活の向上と安定を図ることができた。	・金銭管理や生活相談、税金滞納など、日常生活自立支援事業等の他事業、民生員や担当課との連携を強化。	推進
	8-7	各種見舞金配布事業	B	・災害見舞金規程の見直しを令和5年度に実施し、一部増額とした。	・火災による災害見舞金申請の場合、消防→社会福祉課→社協のプロセスを踏むため、申請者に見舞金を渡すまで時間を要する。	推進
	9-4	居宅介護・訪問介護事業	B	廃止		廃止
	9-5	障がい者児福祉サービス事業	B	廃止		廃止

			A:十分できた : 9事業 B:概ねできた : 18事業 C:あまりできなかった : 2事業 D:取り組めなかった : 2事業	「拡充」…拡大、充実させる事業 : 1事業 「推進」…今後も必要な事業 : 24事業 「結合」…他事業と合わせて事業展開 : 3事業 「縮小」…目標を達成している : 0事業 「廃止」…事業終了 : 3事業
			延べ事業合计数 : 31事業	延べ事業合计数 : 31事業

～ 新しいつながり ささえあうまち 我孫子 ～

第 6 次 我孫子市地域福祉活動計画

令和4年度（2022年度）～令和8年度（2026年度）

安心とゆとりのまち 住み続けたいまちづくり

地区社会福祉協議会 中間評価

安心とゆとりのまち 住み続けたいまちづくり

我孫子北地区社会福祉協議会 進捗評価表

地区理念 「このまちで安心して暮らしつづけるために」

基 本 目 標	A：十分 できた	B：概ね できた	C：あまりで きなかった	D：取り組め なかった
目標1. 広げよう、つながりの輪	59%	24%	10%	7%
目標2. 学び、理解し、共にあゆむ	83%			17%
目標3. 支援が必要な人たちを支える	71%	14%		14%
目標4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり	67%	11%		22%
目標5. 安心と安全を守る取り組み	50%			50%

■■■今後、重要（拡充）となる事業■■■

□

□

1. 広げよう、つながりの輪

我孫子北地区社協 第6次我孫子市地域福祉活動計画進捗評価表

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
1 交流の場の提供や活動の支援をします	1	根戸エリア福祉懇談会の開催	B	自治会同士のつながりが少ないため、地区社協が主体となり交流の場を提供した。	- 参加自治会が少ない。 - 参加している自治会も、積極的につながりを持とうとするところは少ない。 - 実態や地域ニーズを確認し、事業名の変更も検討する。	継続
	2	小学校児童と高齢者の交流会（昔遊び）	A	地域と学校との交流の場を提供した。	住民、スタッフの参加が減っているため、集客方法を検討する。	継続
	6	障害児者関連施設製作品の展示即売会	B	「我孫子北部地域文化祭」や「健康と福祉のつどい」等で、販路の協力ができた。	参加団体が減少している。開催日の変更はできないが、即売会ができるイベントが他にもないか、今後検討する。	継続
	8	子育て支援活動	B	- 子育て世代の親子が地域と交流を図れる場を提供できた。 - 参加者からは喜ばれた。	- 参加人数にバラつきがあるため、PRの検討。 - 参加者を増やすにはどうすればよいか。他の地区の活動等も参考に検討していく。	継続

1 交流の場の提供や活動の支援をします	9	保育園児と地域ボランティアとのふれあい	C	・年長児に手作りのおもちゃを提供する等し、つながりは持てているが、実際に園児と触れ合うイベントが出来ていない。	・ボランティアの高齢化に伴い、委員への負担が増えている。今後は、ボランティアも委員にも負担をかけずに、楽しんでもらえる企画を検討していく。	縮小
	10	健康と福祉のつどい	A	・健康への啓発ができています。 ・学校等団体の発表により、地域との交流・つながりの機会を提供できた。 ・参加団体からは喜ばれている。	・参加団体がマンネリ化している。今後、参加団体の選び方や内容について検討していく。 ・参加スタッフの高齢化も課題。	継続
	11	コミュニティサロン“きた”	A	・地域の健康増進になっている。 ・参加者からは、月2回の体操の機会に感謝されている。	・人数増による会場確保が今後の課題。	継続
	13	委員研修会	B	・地域の福祉施設や高齢者施設等を知る機会の提供ができた。	・魅力あるテーマをどう選ぶか。	継続
	15	サロンアントレッド	A	・地域の高齢者の集まりの場を提供し、参加者からは喜ばれた。	・人数増による会場確保が今後の課題。	継続
2 生きがい、仲間づくりを推進します	1	根戸エリア福祉懇談会の開催	A	・地域の情報共有する場を提供・情報共有ができた。	・参加団体が少ない。	継続
	2	小学校児童と高齢者の交流会（昔遊び）	A	・参加する高齢者へ交流の場を提供できた。	・自治会からの参加が減っている。	継続

2 生きがい、仲間づくりを推進します	8	子育て支援活動	A	・イベントを企画・運営することで子育て世代同士の交流の場を提供し、参加者からは喜ばれた。	・参加する委員（スタッフ）の減少が課題。	継続
	9	保育園児と地域ボランティアとのふれあい	C	・直接、園児とボランティアがふれあう機会が提供できなかった。	・ふれあいの内容を検討する。	縮小
	11	コミュニティサロン“きた”	A	・参加者、委員のいきがい、仲間づくりの機会となっている。	・参加者増加による会場確保が課題。	継続
	13	委員研修会	B	・委員同士の交流・懇親の場となっている。	・参加者が少ない。	継続
	15	サロンアントレッド	A	・参加者、委員のいきがい、仲間づくりの機会となっている。	・人数増による会場確保が課題。	継続
3 関係機関とのつながりを強化します	1	根戸エリア福祉懇談会の開催	A	・自治会同士のつながり、市役所関係機関とのつながり、地域の橋渡しができた。	自治会から参加が少ない。今後、懇談会の進め方について検討する。	継続
	8	子育て支援活動	A	季節ごとに保健センターの保健師より、参加者へ必要な情報の提供ができた。	月毎の企画等にバリエーションを持たせ、参加者を増やすことが今後の課題。	継続
	9	保育園児と地域ボランティアとのふれあい	D	子どもたちと交流の機会が提供できなかった。	高齢化等により、活動してくれるボランティアを探す必要がある。	縮小
	10	健康と福祉のつどい	A	健康への啓発、学校等団体の発表により、地域との交流・つながりの機会が作れた。	・催し物の内容を検討する。 ・参加スタッフの高齢化が課題。	継続

3 関係機関とのつながりを強化します	12	北地区福祉フォーラム	A	・地域のボランティア、民生委員、行政等と一緒に、福祉について考える機会が提供できた。	・参加者の減少。 ・開催方法、開催日の検討が課題。	継続
4 福祉に関する情報を提供します	1	根戸エリア福祉懇談会の開催	C	・なんでも相談室参加により、参加団体へ福祉の情報を提供できた。	・地域の福祉問題を議論する機会になっていない。	継続
	5	介護教室	A	・高齢者なんでも相談室と連携し、参加者へ最新の福祉情報を提供できた。	・参加者が興味を持つテーマ決めが難しい。	継続
	7	電話訪問サービス	B	・利用者に必要に応じた情報提供が出来た。	・ボランティアの研修・育成に引き続き務める。	継続
	8	子育て支援活動	B	・「わ」掲示板により、子育てに必要な情報が提供できた。	・今後、SNSの活用等も検討していく。	継続
	9	保育園児と地域ボランティアとのふれあい	D	・福祉に関する情報提供の場とはなっていない。	・福祉に関する情報提供ができる事業なのかを今後検討する。	縮小
	10	健康と福祉のつどい	A	・学校等団体の発表や、福祉団体の冊子、パネル展示により福祉に関する情報提供ができた。	・講師、内容の選定、参加団体の減少をどうするか、今後検討する。	継続
	12	北地区福祉フォーラム	A	・福祉に関する情報提供ができた。 ・いま注目されている内容をタイムリーに取り上げ、情報提供と共有を図った。	・開催方法（開催日含む）、内容の選定方法が今後の課題。	継続

4 福祉に関する情報を提供します	14	広報紙「あびこ北地区社協だより」	A	・地域の自治会活動や団体等の活動を取り上げ、地域住民に情報提供ができた。	・委員の負担にならない配布方法を検討するのが、今後の課題。	継続
------------------	----	------------------	---	--------------------------------------	-------------------------------	----

2. 学び、理解し、共にあゆむ

活動方針	事業名		進捗評価	地域への影響	課題	今後取組
5 学習の場を提供します	2	小学校児童と高齢者の交流会（昔遊び）	A	・地域の団体、自治会の協力を得て、児童へ学習の場を提供できた。	・参加者（高齢者）、ボランティア（委員含む）の確保が今後の課題。	継続
	3	中学校生徒の福祉体験授業	A	・地域の団体にも協力をいただき、生徒に福祉について学ぶ機会が提供できた。	・ボランティア（委員含む）の確保が今後の課題。	継続
	4	認知症サポーター養成講座	D	・実施できなかった。	・他団体で既に実施しており、内容や時期など調整が難しいため、やり方を検討する。	縮小
	5	介護教室	A	・高齢者の興味が高く、申込が多かった。 ・高齢者なんでも相談室と連携し、学習の場の提供ができた。	・介護教室の中身について今後検討する必要あり。	継続
	10	健康と福祉のつどい	A	・講演会をとおして、福祉や医療について学ぶ機会の提供ができた。	・講師、内容の選定方法を検討し、参加者増につなげられるようにする。	継続

5 学習の場を提供します	1 2	北地区福祉フォーラム	A	・福祉について、定期的に学ぶ機会と意見交換の場を提供できた。	・開催の仕方、内容の検討が今後の課題。	継続
	1 3	委員研修会	A	・地域の福祉施設等を見学し、我孫子市の福祉について学ぶ機会を提供できた。	・開催時期や内容の検討が今後の課題。	継続
6 福祉教育を推進し、理解を深めます	3	中学校生徒の福祉体験授業	A	・子どもたちに、高齢者福祉・障害者福祉について学ぶ機会を提供し理解を深められた。	・お手伝いをいただくスタッフの確保が今後の課題。	継続
	4	認知症サポーター養成講座	D	・北地区社協主催での実施はなし。支援スタッフとして、地区社協委員が協力。	・学校への協力方法、支援スタッフの確保が今後の課題。	縮小
	5	介護教室	A	・高齢者なんでも相談室と連携し、学習の機会を提供。福祉への理解を深める活動ができた。	・介護教室の内容を今後検討する。	継続
	1 2	北地区福祉フォーラム	A	・様々な団体の協力をいただき、福祉について、地域の方へ学ぶ機会を提供できた。	・開催方法、内容について今後検討する。	継続
	1 3	委員研修会	A	・地域への理解、学習の機会を提供した。	・実施方法、内容について今後検討する。	継続

3. 支援が必要な人たちを支える

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
活動方針 7 見守り活動を推進します	3	中学校生徒の福祉体験授業	A	・福祉体験授業をとおして、安心・安全に体験授業が行えるよう見守りを行った。	・見守りを行うために、スタッフの確保が今後の課題。	継続
	4	認知症サポーター養成講座	D	・実施なし。	・他団体でも多く実施されているため、開催の必要性を検討する。	縮小
	7	電話訪問サービス	A	・月～金で活動し、利用者の体調やご様子を見守った。	・電話による詐欺等もあるため、電話を使った見守りがなかなか進まない。 ・利用者が増えない。	継続
	8	子育て支援活動	B	・活動を通して子育て世代の親子の見守りを行った。 ・継続してくれる参加者も増えている。	・支援スタッフ全員が同じ認識で子育て世代の親子に接することができるよう、引き続きマニュアルの見直し等をおこなっていく。	継続
	9	保育園児と地域ボランティアとのふれあい	D	・実施できなかった。	・園児の見守りを行っているが、スタッフ不足が今後の課題。	縮小
	12	北地区福祉フォーラム	A	・地域の支援者でつくる LINE 等をとおして、地域の見守りを行った。 ・地域の情報共有の場となっている。	・LINE 参加者を増やして、きめ細かな見守りができるようにする。	継続

活動方針 7 見守り活動を推進します	15	サロンアントレッド	A	・活動を通して、一人暮らし高齢者の外出支援を行うとともに、見守りも行った。	・たくさんの方に参加していただけるよう、広い会場の確保が課題。	継続
活動方針 8 ささえあい活動や生活支援に取り組めます	7	電話訪問サービス	A	・月～金で活動し、ささえあい活動、生活の支援の一旦を担っている。	・利用者へ適切な情報を提供するために、ボランティアの研修体制を整える。	継続
	11	コミュニティサロン “きた”	A	・活動を通して、健康増進、仲間づくりの支援に取り組み、地域住民の健康寿命延伸に努めた。	・参加者が増加傾向にあり、広い会場の確保が課題。 ・会場の確保が難しい場合、回数で調整する等も含め検討する。	継続
	12	北地区福祉フォーラム	A	・活動を通して、地域のささえあい活動や生活支援をどうするか考える機会を作った。	・開催方法、話し合う内容について今後検討。	継続
	15	サロンアントレッド	A	・活動を通して、高齢者のささえあい活動や生活支援の一端を担っている。	・参加者の平等性について考える。 ・参加者への声掛けの範囲等。	継続
活動方針 9 寄付、募金運動に取り組めます	※赤い羽根共同募金、災害義援金等に協力		B	・ポスターの掲示やイベント時に募金活動を行った。	・わかりやすい啓蒙方法の検討。	継続
活動方針 10 福祉施設や福祉団体を支援します	6	障害児者関連施設製作品の展示即売会	A	・11月の文化祭時、3月の健康と福祉のつどい時に販路の協力と障害を理解する場を提供できた。	・販路の協力以外でも、福祉団体を支援する方法があるか検討する。	継続
	10	健康と福祉のつどい	A	・販路の提供、障害についての理解を深める機会を作った。	・会場の確保、参加できる団体の確保が課題。	継続

4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
活動方針 11 ボランティア・市民活動ができる場を提供します	2	小学校児童と高齢者の交流会（昔遊び）	A	・地域ボランティアや地区社協の協力会員が参加し活動できる場を提供した。	地区社協委員と地域のボランティアで人数が揃わなかった際に、協力委員へ声掛けするタイミングや人数の調整が課題。	継続
	4	認知症サポーター養成講座	D	・実施なし。	開催の必要性を検討。	縮小
	7	電話訪問サービス	A	・ボランティアの活動機会を提供できた。 ・また、活動に必要な研修も提供した。	・ボランティアの高齢化に伴い、新たなボランティアを育成するのが課題。	継続
	10	健康と福祉のつどい	A	・出演者にボランティアとして出演していただき、活動の場を提供した。	・出演者の確保、募集方法の検討が今後の課題。	継続
	12	北地区福祉フォーラム	B	・北地区福祉フォーラムを通して、必要に応じてボランティア・市民活動ができる場の情報を提供した。	・参加者の確保、発信内容の精査が今後の課題。	継続
活動方針 12 ボランティア・市民活動の情報を提供します	4	認知症サポーター養成講座	D	・実施なし。	・開催の必要性の検討。	縮小
	10	健康と福祉のつどい	A	・学校等団体の発表や、福祉団体の紹介冊子、パネル展示により情報提供を行った。	・情報提供の方法について、今後検討する。	継続
	12	北地区福祉フォーラム	A	・LINE による見守り、勉強会等を適宜開催し、地域福祉活動に必要な情報を提供した。	・発信内容の精査、参加者をいかに増やすか。	継続

活動方針 12 ボランティア・市民活動の情報を提供します	1 4	広報紙「あびこ北地区社協だより」	A	・地域の自治会や団体等の活動について、紙面に取り上げ、紹介を行った。 ・発刊のたびに地域から 3～4 件の反応がある。	・広報誌の配布、受取方法の検討。	継続
------------------------------	-----	------------------	---	--	------------------	----

5. 安心と安全を守る取り組み

活動方針	事業名		進捗評価	地域への影響	課題	今後取組
活動方針 13 「あんしんカード」(医療情報カード)の普及			A	・地域の方に必要な情報を提供し、適切な受け渡しに努めた。	・広報活動の方法を検討する。	継続
活動方針 14 大規模災害や感染症に備える取り組みをします	1 2	北地区福祉フォーラム	D	・LINE 見守りで提供の場は整えたが、災害や感染症に備える発信はできていない。	・内容の精査、発信のタイミングを検討。	継続

第6次我孫子市地域福祉活動計画 中間評価

令和6年度

安心とゆとりのまち 住み続けたいまちづくり

我孫子南地区社会福祉協議会 進捗評価表

地区理念 「一人がみんなのために皆がひとりのために」

基 本 目 標	A：十分 できた	B：概ね できた	C：あまりで きなかった	D：取り組め なかった
目標1. 広げよう、つながりの輪	87%	6%	6%	
目標2. 学び、理解し、共にあゆむ	78%	22%		
目標3. 支援が必要な人たちを支える	100%			
目標4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり		100%		
目標5. 安心と安全を守る取り組み	25%	75%		

■■■今後、重要（拡充）となる事業■■■

☐出張茶和会

☐ぶらり散策

1. 広げよう、つながりの輪

我孫子南地区社協 第6次我孫子市地域福祉活動計画進捗評価表

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
1 交流の場の提供や活動の支援をします	2	世代間交流	A	・市子育て支援センターへの協力は、地域内子育て世代と経験豊かな社協委員との交流の場の提供であり、昔遊びの紹介などを通して、共有する時間は気軽な育児相談ともなっており、地区社協が身近な存在となっている。	・子育て世代の悩みや問題に寄り添えるように努力していく。	継続
	7	子育て支援事業：とおんきごう	A	・遊びやゲーム、ピアノ歌、読み聞かせ等を定期的実施している。 ・子育て世代への交流の場の提供となっている。 ・クリスマス行事を取り入れるなど季節感のあるものとしている。	・参加委員が固定化することのないようにより多くの委員を募集する。 ・実施内容の多様化と参加者拡大への周知方法の検討。	継続
	9	おたのしみ昼食会	B	・高齢者が外出できる機会をつくり、参加者同士の交流の場にもなっている。 ・調理実習は、手に入りやすい材料で簡単に作れ、栄養について学べる機会にしている。	・開催場所が同じため、リピーターが多い。新規参加の獲得のため、広報等に工夫が必要。特に男性の参加を増やしたい。	継続

1 交流の場の提供や活動の支援をします	11	高齢者日帰りバス旅行	A	・高齢者の外出のきっかけとなり、参加者同士の交流もはかることができている。 ・毎回、楽しみに申込みをされている方も多く、参加された皆さんから、とても充実した楽しい1日を過ごせたと喜ばれている。	・参加者募集については、主に「南地区社協だより」の自治会回覧で行っているため、回覧の回り具合で申込みのタイミングに差がでている。	継続
	12	福祉フェスティバル	A	・事業開催が定着しており、南地区の町会・町内会・自治会等の協力を得て、地域の交流の場となっている。	より多くの人に来場いただけるように、周知方法、チケットの販売方法について工夫が必要。	継続
	15	委員研修会	A	・福祉施設の見学を行い、委員同士の親睦を深めている。	・委員同士の交流の場とともに学びの場として我孫子市内を中心に施設の見学等を検討。	継続
	16	広報誌「南地区社協だより」	A	・未加入の自治会から配布希望があった。 ・要望があれば、配布している。	・紙ベースとデジタルベースのバランスを取りながらホームページの閲覧数を増やす。	継続
	17	【新規】ぶらり散策	B	・募集で集まった人々が短い時間の中で共に知り合う場を持った。 ・我孫子を知ってもらうことが出来た。	・広報、チラシ等で参加者を増やして行く。	拡充

1 交流の場の提供や活動の支援をします	18	【新規追加】スマホ教室	A	・応募者が多く、反響があった。	・参加者一人一人への対応が必要であり、サポーターが必要。 ・1回限りではなく、繰り返し参加していける仕組みづくりが必要。	拡充
	19	【新規追加】出張茶話会和	A	・出来るだけ近隣の人達が参加出来る様にこちらから、出向いて学びと憩いの場を提供した。	・大人数入れる会場が少なく、内容にも限りが出てしまう。	拡充
2 生きがい、仲間づくりを推進します	3	地域懇談会	A	・町会、町内会、自治会とまち協、地区社協との三者がそれぞれの立場と地域の課題をテーマとしている。 ・構成員の団体への理解と協力を促す場となっており、防災、防犯、交通、まちづくり、福祉活動等への協働意識の推進となっている。	・より多くの参加を得るよう、代表者の出席を促すため会の開催周知をそれぞれの広報媒体の活用や情報提供を模索する。 ・引き続き、委員となっていない民生委員の参加を得られるよう案内する。	継続
	6	介護予防教室	A	・いつまでも仲間達と継続して楽しく、予防が出来る健康寿命が延びる。 ・終了後、仲間での会食を楽しみにしている。	・健康寿命を延ばせるよう、参加しやすく、継続しやすい内容を検討していく。	継続

2 生きがい、仲間づくりを推進します	17	【新規】ぶらり散策	A	・一期一会のめぐり逢いで仲間づくりと歴史探訪の機会を作っている。	・若い人達にも参加を促し、郷土の歴史を知って欲しい。	拡充
	18	【新規追加】スマホ教室	A	・みなスマカフェ(仮)として学習の場、仲間づくりを推進する。	・なんでも相談室や民生委員との連携を深める。	拡充
3 関係機関とのつながりを強化します	13	手賀沼ふれあいサロンとの連携	C	・各種イベントのチラシを届ける。	・参加が少なくなってきたため、開催方法や在り方を考えていく。	縮小
4 福祉に関する情報を提供します	16	広報誌「南地区社協だより」	A	・福祉関係の事業における募集や実施報告を提供できた。	・的確な情報の提供に努める。	継続

2. 学び、理解し、共にあゆむ

活動方針	事業名		進捗評価	地域への影響	課題	今後取組
5 学習の場を提供します	4	健康まつり	A	・健康についての知識が得られる講演会と健康と体力の測定などの二部制で実施し、気軽に参加できる事業として23回継続開催している。 ・講演の講師には、極力地域内の病院等の理解と協力を得ている。	・講演内容等、健康に繋がる内容、地域住民の方が興味を持たれる内容を講座に反映していきたい。	継続

5 学習の場を提供します	5	認知症サポーター養成講座	B	・認知症の正しい知識を広い範囲の人に学んで頂く。 ・認知症のご家族にも広がっていくと良い。	・講座を受け、該当者を担当部署へ繋いで行く連携が出来るようにしたい。 ・認知症の人への接し方を拡充したい。	継続
	6	介護予防教室	A	・口コミで参加者が増加、交流の場になっている。	・関心の高い内容を反映、継続していける内容を提供できるようにしていきたい。	継続
	9	お楽しみ昼食会	A	・防災や健康関連、調理等幅広い分野で楽しく学べる場を提供している。	・多くの方々に参加を呼びかけ体験をして欲しいので、募集の方法を考える。	継続
	15	委員研修	A	・福祉施設等を、現地にて研修し、現場の雰囲気や声を体感し、委員同士で共有することができている。	・委員同士の交流の場とともに学びの場として我孫子市内を中心に施設の見学等を検討。	継続
	17	【新規】ぶらり散策	B	・毎回、短時間で地域の歴史が学べ、船から対岸を深訪できる唯一の機会である。	・天候に左右されるため、雨天時での内容検討が必要。	拡充
	18	【新規追加】スマホ教室	A	・防災に役立つ講座が好評であった。 ・参加希望者が多かった。	・回数を増やし、繰り返し練習できるようにしていくとともに、一人ひとりにサポートがつけるようにしていきたい。	拡充

5 学習の場を提供します	19	【新規追加】出張茶和会	A	・高齢者が知っておくと実際に役立つ情報等を簡単にわかりやすく学べる場を提供している。	・高齢者の出かけて行ける場を増やして行きたい。	拡充
6 福祉教育を推進し、理解を深めます	2	世代間交流	A	・一小への昔遊びの紹介と四小への高齢者疑似体験及び昔遊びの紹介は、高齢者への理解と思いやりの心を醸成する。（開かれた学校づくりに協力している。）	・昔遊びの提供者も年々減少の傾向があるため、委員間においても実践できるよう努力していく。	継続

3. 支援が必要な人たちを支える

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
活動方針 7 見守り活動を推進します	1	我孫子南フレンドネット	A	・見守り活動チラシを配布により定着してきた。 ・町会・民生委員・委員・なんでも相談室との連携により地道な見守り活動を行った。	・他の機関との連携を密にする。	継続
	6	介護予防教室	A	・参加者の握力、血管年齢、骨密度測定等を行い健康状態の確認を行っている。	・参加希望者が多く、会場の確保や補助スタッフの確保が困難。	継続

活動方針 7 見守り活動を推進します	7	子育て支援：とおんきごう	A	定期的な開催による場の提供は、委員や参加者同士が顔見知りとなり、育児不安や生活不安等への相談が比較的しやすくなっている。	相談があった場合は、今後の参考とするため、委員間で情報交換を行い、情報を共有することが望ましい。	継続
	9	お楽しみ昼食会	A	特に調理実習時、栄養的にも精神的にも補ってもらえる場を提供する。	日常生活に役立つ内容に努める。	継続
	10	電話訪問サービス事業	A	- 利用者が少しずつ増加、ボランティアも増員。 1日中誰とも話さない独居の方にはとても喜ばれている。 - 時間を決め電話をしているので、安心して出て頂ける。	ボランティア・立会人の勉強の機会が増えると良い。	継続
活動方針 8 ささえあい活動や生活支援に取り組めます	1	我孫子南フレンドネット	A	町会・民生委員・委員・なんでも相談室の地道な見守り活動を行った。	行政機関との連携を深める。	継続
	6	介護予防教室	A	予防教室に通うことが日々の生活の健康維持に役立つよう実施している。	1日でも、長く健康で暮らせる様にささえ合いが出来るとうい。	継続

活動方針 9 寄付、募金 運動に取り組みます	12	福祉フェスティバル	A	・災害義援金の募金を実施しており、多くの協力を得ている。	能登地震災害義援金を集めた。	継続
活動方針 10 福祉施設や 福祉団体を支援します	8	障害者福祉施設等の支援	A	・総会や全員協議会には、福祉施設で作られている、パンやお菓子、野菜などを販売し、支援を行っている。 ・福祉フェスティバルでパネル展示をしている。	・他にもできる支援があるのか、検討。	継続
	12	福祉フェスティバル	A	・毎回、市内の福祉施設の紹介と作品の展示を行っている。 ・福祉施設の製品・食品等をチケットと引き換えの景品として、参加者にお渡しし、支援をはかっている。 - また、景品引き換え時には、福祉施設の方にも協力頂き、交流を図っている。 ・フェスティバルの運営に協力してくれている委員の昼食に、福祉施設で作っているお弁当を購入し、支援につなげている。	・第 30 回の記念すべき「福祉フェスティバル」が行われた。	継続

4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
活動方針 11 ボランティア・市民活動ができる場を提供します	5	認知症サポーター養成講座	B	・地域住民のささえあいをお願い実施。	・参加者の募集をする。	継続
	14	安心安全事業	B	・AED 講習会を開催し、いざという時に備える取り組みを行った。	・自転車の安全教室の開催など、住民が関心のある情報を収集し反映させる。	継続
活動方針 12 ボランティア・市民活動の情報を提供します	※該当事業なし					

5. 安心と安全を守る取り組み

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
活動方針 13 「あんしんカード」(医療情報カード)の普及	3	地域懇談会	A	・会議のテーマとして取り上げ、その後の利用につながった自治会がある。	・さらなる普及、活用に尽力していく。	継続
	14	安心安全事業	B	・様々なイベントでのPRで「あんしんカード」が普及してきた。	・町会や民生委員を通してさらなる普及を目指す。	拡充
活動方針 14 大規模災害や感染症に備える取り組みをします	1	我孫子南フレンドネット	B	防災キャンプや防災時の講座等に参加した。	・行政機関との連携を深める。	継続
	14	安心安全事業	B	・AED 講習会を開催し、いざという時備える取り組みを行った。	・市、市社協と連携を深め、防災に取り組む。	拡充

安心とゆとりのまち 住み続けたいまちづくり

天王台地区社会福祉協議会 進捗評価表

地区理念 「健康であかるく たのしく なかよく暮らしていくために」

基 本 目 標	A：十分 できた	B：概ね できた	C：あまりで きなかった	D：取り組め なかった
目標1. 広げよう、つながりの輪	73%	13%	13%	
目標2. 学び、理解し、共にあゆむ	100%			
目標3. 支援が必要な人たちを支える	50%	33%	17%	
目標4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり	50%	50%		
目標5. 安心と安全を守る取り組み	33%	33%		33%
目標6. 地区社協独自 委員の交流とレベルアップ		100%		

■■■今後、重要（拡充）となる事業■■■

☐

☐

1. 広げよう、つながりの輪

我孫子天王台地区社協 第6次我孫子市地域福祉活動計画進捗評価表

活動方針	事業名		部会	進捗 評価	●地域への影響	◆課題	★今後 取組
1 交流の場の提供や活動の支援をします	1	天王台地域や学校との交流事業 「世代間交流」	交流	A	・地域内小学校バザー、昔遊びの会に参加し、子どもたちと楽しく交流出来た。 ・我中バザーの実施要綱が変わり中学生ボランティア応援はなくなったが、バザーでの買い物を通して交流した。 ・他のイベントで中高生ボランティアと交流を図った。	・小学校のバザー等での昔遊び企画の内容を更に充実させていきたい。	継続
	2	高齢者との交流事業					
	a)	ふれあい日帰りバスツアー	福祉	A	・独居の人を対象に、福祉バスを利用し比較的安い費用で実施している。 ・美味しい食事や普段行けない場所を観光することで、参加者に喜ばれた。	・行先の選定やボランティアが高齢化してツアーの下見が難しくなっている。 ・独居男性へのPR強化を図っていく。	継続
	b)	お楽しみ会	交流	A	・お一人で参加の方も昼食会の場で地域の方との交流ができた。 ・参加者からは、内容も良く楽しかったとの声が寄せられた。	・どのような演目にするか等、イベントの企画に苦慮している。	継続
	c)	男性のための料理教室	交流	A	・参加者から喜ばれており、年1回だけでなく回数を増やしてほしいという要望をいただいた。	・新しい参加者をどのように増やしていくかが課題となっている。 ・物価上昇への対応。	継続

1 交流の場の提供や活動の支援をします	3	【新規】高齢者のささえあい交流支援事業	ささえあい	A	・当初の目論見通り男性の参加者が多く、好評を頂いている。 ・高齢者なんでも相談室にも参加者から好評価の声が寄せられているとのこと。	・「座学と散策」にマッチした企画の検討。	継続
2 生きがい、仲間づくりを推進します	4	高齢者の交流の場づくり事業「おしゃべりサロン」	福祉	A	・折紙、脳トレゲーム、楽しいおしゃべり、軽い運動などで認知症予防になっている。 ・地域の方との交流の場になっている。	・「おしゃべりサロン」の名称だと女子限定と勘違いされてしまうためか、男性の参加者が少なく、今後検討が必要。	継続
	5	子育てサロン事業「のびっ子クラブと交流の場づくり」	交流	A	・親同士の交流ができている。 ・男親の参加もある。 ・年1回実施している「太鼓で遊ぼう」は、太鼓を使った人気の企画で、参加者に好評をいただいている。 ・「かわむらんど」への出張等、他団体との交流もある。	・自治会と共同での実施を検討していく。 ・参加者が減ってきているため、広報等でPRを強化していく。	継続
3 関係機関とのつながりを強化します	6	地域の各団体との連携事業					
	a)	福祉懇談会の実施（自治会・民児協他）	ささえあい	A	・「地域の困りごと」についてディスカッションを行い活発な意見交換となった。	・より多くの自治会が参加してくれるよう働きかけていく。	継続
	b)	まちづくり協議会（天北地区・こもれび）との連携	交流	A	・両協議会主催、共催イベントを連携しながら実施し交流を図った。 ・市民祭り等に参加し、地区社協のPRもできた。	・市民祭り等は暑い時期に集中するので、お手伝い委員の高齢化に伴い対策を講じる必要がある。 ・イベントの開催時期の検討。	継続
	c)	我孫子第三地区民生委員児童委員協議会との交流	ささえあい	B	・時間が足りず、相互の事業内容まで話し合うことができなかった。	・共通課題の設定と情報交換をどのようにしていくかが課題。	継続

3 関係機関とのつながりを強化します	d)	ボランティア団体との交流	その他	B	・「ボランティア市民相談窓口で・と・り・あ」の関係ボランティア団体に、ボランティアメッセの参加を依頼し交流を図った。 ・高齢者疑似体験、ボランティアメッセ等で小中学校PTAやボランティア団体から支援をいただき交流が図れた。	・感染症の影響や高齢化に伴い、ボランティア団体にイベント参加を依頼しても困難な場合もある。 ・現在のボランティアメッセの実態に合わせ、名称の見直しを行う。	継続
	e)	高齢者なんでも相談室との連携	福祉	A	・なんでも相談室と連携し、お元気まんてん教室、認知症サポーター養成講座を共催で実施した。 ・RUN 伴+あびこに参加し交流を図った。	・企画内容の充実を図っていく。	継続
	f)	障がい者まちかど相談室との連携	交流	C	・月次報告にて活動状況を把握するのみに留まっている。	・交流活動の方法を検討。	継続
4 福祉に関する情報を提供します	7	福祉情報の提供と認知度 UP 事業「ゆうゆうだより他」発行	広報	A	・広報誌「ゆうゆうだより」配布自治会へ、天王台地区社協の活動をお知らせする事により、地区社協の認知度 UP に貢献する事が出来た。	・各戸配布から回覧へ変更等により、発行部数が減少傾向にある。 ・より魅力的な紙面の構成が必要。	継続
	8	福祉サービスの情報収集と提供事業	ささえあい	C	・地域交流会の「困ったときガイド」の討議に参加した。	・「困ったときガイド」の情報宣伝活動。	継続

2. 学び、理解し、共にあゆむ

活動方針	事業名		部会	進捗 評価	●地域への影響	◆課題	★今後 取組
5 学習の場を提供します	9	高齢化に伴う介護予防の推進事業					
	a)	介護予防教室（シニアいきいき講座／健康体操編・歌声編・【新規】バランスボール編）	交流	A	- 健康体操編・歌声編とも毎回定員越えの予約があり、地域の方が楽しみにしている企画の一つとなった。 90歳代の方も参加し介護予防にもなっている。 - 新規のバランスボール編も人気がある。	- バランスボール編は定員が20名なので、予約開始後すぐ定員に達してしまう。 - 自治会での出前講座の検討。	継続
	b)	認知症サポーター養成講座	福祉	A	認知症の正しい知識が少しずつ地域の方に浸透してきた。	若い方の参加者が非常に少ない。	継続
	c)	健康マージャン教室	福祉	A	- 脳トレ（認知症予防）になっている。 - マージャンの楽しさを知るとともに、地域の知らない人との交流ができ好評を得ている。	教室卒業後、マージャンを続けられる場所を検討する。	継続
	10	健康で元気な地域づくりの推進事業					
	a)	健康フェア	交流	A	地域の中の会場で、健康に関する講座や体力測定、健康チェックを受け、自分の体力を知る事ができるので、毎年参加している方も多い。	- 講座の内容の検討。 - 測定機器の充実。	継続
	b)	福祉に関する各種講座（健康・栄養・消費生活・詐欺など）	福祉	A	「ゆうゆうだより」への掲載やイベント時に、講座の案内をして参加推進した。	新規講座の検討。	継続

6 福祉教育を推進し、理解を深めます	1 1	学校における福祉教育の推進事業	福祉	A	・高齢者疑似体験では「高齢者への理解」、認知症サポーター養成講座では「認知症とはなにか」を知ることができ、児童にとって貴重な体験となっている。 ・地域内全小中学校で実施できている。	・疑似体験ボランティアが高齢化してきており、体力的に厳しくなっている。	継続
--------------------	-----	-----------------	----	---	---	---	----

3. 支援が必要な人たちを支える

活動方針	事業名		部会	進捗評価	●地域への影響	◆課題	★今後取組
7 見守り活動を推進します	1 2	高齢者の見守り事業					
	a)	電話訪問サービスの推進	福祉	A	・利用者からは楽しくお話しが出来たと感謝されている。	・「電話訪問」の名称は敷居が高く思われている。 ・利用者が減少しているため、引き続きゆうゆうだよりで募集かけていく。 ・電話訪問ボランティアの新規育成。	継続
	b)	身近な見守り活動の推進	ささえあい	C	・具体的な活動について検討しており、令和5年度にNPO 法人エンリッチの「LINE を活用した見守りサービス」についての講演を受講した。	・我孫子市のエンリッチ活用状況を調査し、今後の対応を検討する。	継続
	1 3	子供の見守り事業	交流	B	・学校からの見守り支援要請に協力。 ・フードバンク、たすけあいバンクへの協力。	・実質的な登下校等見守り支援の方法を検討する。	継続

8 ささえあい活動や生活支援に取り組めます	14	生活課題の周知と生活支援活動の推進事業(地域ささえあい活動)	ささえあい	A	・ごみ出し支援事業は2022年10月開始以来、累計利用会員申込件数34件、累計利用会員数17件となっており、協力会員数24名、コーディネーター4名で対応している。 ・利用会員、協力会員からも好評価を頂いている。また自治会、福祉施設からの協力も頂いている。	・情報宣伝活動の継続。 ・市社協「あい・あびこ」との連携強化。	継続
9 寄付、募金運動に取り組めます	15	【新規】寄付、募金運動の推進事業	その他	B	・市社協と協力し募金箱やポスターの設置、イベント参加者へ募金への協力を呼びかけた。 ・社協バザー品受取りの際、提供者に確認したうえ、食料品を「たすけあいバンク」に寄付した。	・協力自治会数の減少に比例して募金額も減少している。 ・市社協「たすけあいバンク」との連携。	継続
10 福祉施設や福祉団体を支援します	16	障がい者及び福祉施設等の支援事業	交流	A	・イベント時に施設で作った製品の販売場所の提供やイベント時の昼食として購入し支援した。 ・「ゆうゆうだより」で障害者施設を紹介した。	・物品販売以外の支援方法の検討。	継続

4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり

活動方針	事業名		部会	進捗 評価	●地域への影響	◆課題	★今後 取組
11 ボランティア・市民活動ができる場を提供します	17	地域の福祉人材の育成事業「ボランティアメッセ」「協力ボランティアの養成」	その他	A	・ボランティアメッセ実施の中で「ボランティア相談窓口で・と・り・あ」を開設し、ボランティア活動についての情報を提供した。 ・中高生ボランティアの参加もあり地域交流出来た。 ・「にじプログラム」にてボランティア募集の情報提供を掲載することで、夏休み期間のイベントで中高大学生ボランティアを受け入れ、体験してもらうことが出来た。 ・OB 委員へ協力ボランティア登録の推進をした。	・定年後も仕事を続ける人が多くなり、ボランティアのなり手が減少している。 ・現ボランティアの高齢化。	継続
12 ボランティア・市民活動の情報を提供します	18	【新規】ボランティア・市民活動の情報提供事業	広報	B	・「ゆうゆうだより」の紙面で活動団体の紹介を開始。	・他部会の委員が所属する活動団体の紹介を継続する。	継続

5. 安心と安全を守る取り組み

活動方針	事業名		部会	進捗 評価	●地域への影響	◆課題	★今後 取組
13 「あんしんカード」（医療情報カード）の普及	19	あんしんカード推進事業	その他	B	・あんしんカードについての問い合わせに対して普及推進した。	・イベント時や広報紙を通して、啓蒙推進の意識を高める。	継続

14 大規模災害や感染症に備える取り組みをします	20	安心・安全な地域づくりの推進事業					
	a)	地域の安心・安全マップ作りの推進	広報	A	地域の避難場所や、活用できる施設などを調査し、安心・安全マップを作成、発信した。	2014年からスタートし、2024年で全区域の調査を終えることが出来た。今後の調査は防災に特化し防災バージョンのMapの作成を行う。 - 調査に費やした労力と比較して、地域の皆様にどれ程の影響を与えたか疑問。	継続
	b)	災害時要援護者等、地域の中での見守り活動の支援	ささえあい	D	ごみ出し支援の関りなどで、避難時に支援が必要な方の一部は把握できている。	ごみ出し支援利用会員の意向の確認ができていない。	継続

6. 地区社協独自 委員の交流とレベルアップ

活動方針	事業名		部会	進捗評価	●地域への影響	◆課題	★今後取組
15 委員の交流と能力開発	21	委員研修の実施と能力開発	その他	B	コロナ禍で実施できない年度が続いたが、2024年度は福祉バスを利用して、東庄町の障害者施設を視察した。障害者施設への理解を深めるとともに委員同士の交流を図ることが出来た。	地区社協活動マニュアル改訂の検討。	継続

安心とゆとりのまち 住み続けたいまちづくり

湖北台地区社会福祉協議会 進捗評価表

地区理念 「明るく健康的で 住み良い湖北台のまちづくり」

基 本 目 標	A：十分 できた	B：概ね できた	C：あまりで きなかった	D：取り組め なかった
目標1. 広げよう、つながりの輪	63%	25%		13%
目標2. 学び、理解し、共にあゆむ	63%		13%	25%
目標3. 支援が必要な人たちを支える	75%	25%		
目標4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり	83%	17%		
目標5. 安心と安全を守る取り組み		50%	50%	

■■■今後、重要（拡充）となる事業■■■

☐ 湖北台敬老お楽しみ会

☐ 見守りネットワーク推進事業

1. 広げよう、つながりの輪

我孫子湖北台地区社協 第6次我孫子市地域福祉活動計画進捗評価表

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
1 交流の場の提供や活動の支援をします	3	子育て支援事業	B	・ほっとサロンでの経験を活かし、市立湖北台保育園「すまいる広場」での幼児、親とのふれあいに参加し、活動が軌道に乗ってきている。	・他施設と連携してより活動を広げていく。	継続
	4	児童福祉事業	A	・毎年、西小・東小1・2年生の「昔あそび」の事業に参加、社協委員15人以上が参加し世代間交流にも大いに役立っている。 ・東小では保育園児も同時参加している。	・保育園児との同時開催の時間配分、運用方法など検討が必要。	継続
	11	湖北台敬老お楽しみ会	A	・地域に定着している。 ・西小・東小で交互に開催しており、児童とのふれあいの場としても大いに貢献している R6年度は過去最高の166人の参加で大盛況であった。	・会場までの移動に支援が必要な人が多く、移動手段の工夫が課題となってきた。	拡充

1 交流の場の提供や活動の支援をします	12	湖北台健康まつり	A	・湖北台中学校で毎年開催中、中学生がボランティアとして50人前後参加、ボランティア活動の一環として定着している。 ・ポッチャなどの競技を取り入れて変化を持たせた。	・体力測定中心から、健康イベントへの行事へと内容の工夫が必要。	継続
	17	【新規】お楽しみ昼食会	D	・お休み処の代替として新規事業を計画したが、場所、ボランティア等々課題が多く実現には至っていない。	・集いの場を提供、に向けて前向きに検討する。	継続
	※	集いの場を提供する（「お休み処」の代替として「きらめきデイサービス」方式などを検討）				
2 生きがい、仲間づくりを推進します	1	見守りネットワーク推進事業	B	・コロナ以降活動にバラつきが生じている、各自治会に働きかけて「見守り組織」の活性化を図るべく活動を続けたい。	・見守り組織解散の自治会もあり、復活にむけて働きかけをする	拡大
	3	子育て支援事業	B	・当面「スマイル広場」での活動とした。	・他施設への声掛けを行う。	継続
	17	【新規】お楽しみ昼食会	D	・企画や日程等、検討はしたが実施には至らなかった。	・実施に向けて調整していく。	継続
3 関係機関とのつながりを強化します	1	見守りネットワーク推進事業	B	・各自治会の見守り組織の事務局として、活動の支援、情報交換などを行う。 ・コロナ以降、活動にバラつきがあり、全組織での活性化に注力した。	・見守り組織を解散した自治会もあり、なんとか復活に向けて努力したい。	拡大

3 関係機関とのつながりを強化します	4	児童福祉事業	A	・西小・東小の行事に参加した。 ・社協委員会に校長が参加し、情報交換を実施した。 ・昔遊び・認知ジュニアサポーター養成講座などを定期的開催した。	・学校の教育方針が変化していくこともあり、学校側との情報交換が大切となっている。	継続
	10	湖北台福祉バザー	A	・自治会、見守り組織、まち協、福祉事業所など各機関の協力をいただいて定期的開催した。 ・運営は社協委員のほか都度ボランティアを募集して行っており、地域に定着している。	・冠婚葬祭の形態変化・メルカリ利用など物品の介在が減少傾向にある。	継続
	11	湖北台敬老お楽しみ会	A	・民生委員児童委員協議会との共催で実施した。 ・6年度は過去最高の166人が参加。	・会場までの移動手段の確保（送迎）などが課題。 ・「社協秋祭り」のような雰囲気づくりを行い、参加者の年齢幅を広げていきたい。	継続
	12	湖北台健康まつり	A	・湖北台中学校生徒によるボランティア活動の一環ともなっている。	・常連の高齢化もあり、参加者が減少傾向。内容の工夫が必要な段階に来ている。 ・体力測定中心の内容から、ボッチャなどゲームを取り入れ、楽しんで参加できるイベントを目指したい。	継続

3 関係機関とのつながりを強化します	1 3	鯉のぼりまつり（協賛）	A	・湖北台4団体による協賛事業であり、伝統の社協コーナーは子供たちの大人気種目、全体が巨大イベント化している中、子ども主体のコーナーとして喜ばれた。	・手づくり品が中心のため事前の作業が負担となっている。 ・引き続き企画の充実をはかる。	継続
	1 4	新年の集い	A	・委員・代議員・関連機関など相互の親睦が図れている。	・行事が集中する1月を避けて2月開催とする案を検討する。	継続
4 福祉に関する情報を提供します	1 6	こほく台地区社協だより	A	・地区社協の行事、事業の紹介、予告、結果報告などを年2回発行している。 ・電話訪問利用のすすめ、共同募金などの宣伝なども行った。	・全戸配布を自治会に依頼しているが、先方の体力の問題もあり、検討課題。	継続

2. 学び、理解し、共にあゆむ

活動方針	事業名		進捗評価	地域への影響	課題	今後取組
5 学習の場を提供します	5	介護予防教室	A	・「転ばないための体操教室」を毎年開催しているが、家庭で簡単に取り組める、実技中心のやり方が好評で、毎回定員一杯になるほど人気である。	・マンネリ防止として「口腔ケア」なども検討。	継続

5 学習の場を提供します	6	認知症サポーター養成講座	A	・一般向けは23回開催の実績を誇る事業、もうすぐ累積1000人となる、リピーターも参考になるような内容になっており毎回定員以上の申込あり。	・若い年齢層も参加できるよう土・日開催を模索している。	継続
	9	災害対策事業	C	・各自治会単位の自主防災組織との連携における情報交換程度にとどまっている。	・独自企画による防災関連の勉強会などを検討。 ・独自のチラシで災害に備える大切さをアピールするなどを検討中。	継続
	15	委員研修会	A	・委員および電話訪問ボランティアを対象に定期的に研修会を開催している。 ・JAXA・食と農の科学館を視察した。 ・傾聴講座を適宜開催中。	・バス研修は福祉バスの予約獲得次第となっている。	継続
	17	【新規】お楽しみ昼食会	D	・企画等、検討をしたが実施には至っていない。	・お休み処でのスタッフ（ボランティア）は軒並み高齢化しており、若手の担い手発掘が課題。 ・お休み処の代替として実行を目指しているが場所・スタッフなど諸問題が多く難航している。見守り組織活性化の点からも、事業が開始できるよう進めていきたい。	継続

6 福祉教育を推進し、 理解を深めます	7	台中生向け「認知症サポーター養成講座」	A	・3年生を対象に12回開催 ・学校の年間行事に組み入れての定期開催となっており、理解、協力が得られている。	・父兄の関心と理解が高まるような講座にしたい。 ・生徒自身で何が出来るかを考えることに重点を置きたい旨、学校側からの要望がある。	継続
	8	小学生向け「ジュニア認知症サポーター養成講座」	A	・西・東小学校6年生対象に開催した。 ・高齢者疑似体験はじめ、児童に理解しやすい内容で、好評を得ている。 高齢者なんでも相談室との共催が効果的である。	・疑似体験は委員側のスタッフ確保が課題となっている。	継続
	17	【新規】お楽しみ昼食会	D	・検討段階で実施に至っていない。	・スタッフ確保が大きな課題となっている。	継続

3. 支援が必要な人たちを支える

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
7 見守り活動を推進します	1	見守りネットワーク推進事業	B	・自治会単位の活動に毎年助成金を支給している。 ・コロナ以降解散・活動中断のケースが出ており、自治会によってバラつきが出ている。	・自治会によって、協力の度合いにバラつきがある。 ・全自治会での活動復活や活性化を図るべく努力する。	拡充

7 見守り活動を推進します	2	電話訪問サービス事業	A	・長年の実績があり、コロナ以降口コミでの利用者増加の傾向。 ・数日間応答がないため、民生委員、なんでも相談室と連携して無事を確認するケースがあった。	・ボランティアスタッフが高齢化しており、新たな担い手確保が大きな課題となっている。	継続
8 ささえあい活動や生活支援に取り組みます	1	見守りネットワーク推進事業	A	・ニーズ調査のため、住民アンケートを実施した。	・活動組織のばらつきを是正したい。 ・懸案の住民アンケート終了し、データを今後の活動の参考にしたい。	拡充
	10	湖北台福祉バザー	A	・値付け、販売のボランティアを都度募集し、福祉事業への参加意欲向上に寄与している。 ・売れ残り品を福祉事業所、幼稚園、PTAなどに声掛けをし、有効活用につなげている。	・物の介在が減少傾向で提供品の質、量が減少している。	継続
9 寄付、募金運動に取り組みます	10	湖北台福祉バザー	A	・収益還元として西・東小、台中への寄付を実施。 ・湖北小火災被害に対する寄付を実施した。 ・地域還元として地元の理解も十分得られている。	・若い世代はメルカリ・お宝などの利用が中心で、バザーには抵抗感を感じている可能性もある。	継続

10 福祉施設や福祉団体を支援します	10	湖北台福祉バザー	A	・バザー会場で施設の手づくり品などの展示販売コーナーを設置するなど支援している。 ・売れ残り品の提供も行った。	・スペースが狭い。	継続
	11	湖北台敬老お楽しみ会	A	・体の不自由な人が気楽に参加できるよう、送迎バスで対応した。	・以前、近隣のデイサービス施設利用者を招待していたが、移送や介助の対応が困難であるため、継続できなかった。当時好評であったため復活を検討したい。 ・送迎について、バスでは小回りが利かないため、大型バン投入などを検討している。	拡充
	12	湖北台健康まつり	B	・現状参加者は限定的となっている。	・体力測定中心から、ボッチャなどゲーム感覚を取り入れることで活性化を図っていきたい。	継続

4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
11 ボランティア・市民活動ができる場を提供します	2	電話訪問サービス事業	A	・専門ボランティア15人程度で運用。	・長寿大学に働きかけて数人協力をいただいたが、ボランティアの確保が喫緊の課題。 ・ベテランが多いが高齢化が顕著、若手を募集しているが苦戦中である。	継続
	3	子育て支援事業	B	・「すまいる広場」での活動が軌道に乗りつつある。	・対応できる委員の養成も必要。 ・他施設への広がりを模索中。	継続
	10	湖北台福祉バザー	A	・都度ボランティアを募集し、値付け・販売を担っていただいております、貴重な戦力となっている。	・バザー品購入も福祉への協力ということを理解してもらう情報発信を心掛ける。	継続
	11	湖北台敬老お楽しみ会	A	・福祉施設の手づくり品を参加者記念品として使用し、営業支援している。	・高齢者に限らず若い世代も参加しやすい内容ネーミングの工夫などが検討課題。 ・コロナ前のように会場設置作業、お茶のサービスなどの障がい者の出番も検討が必要。	拡充

11 ボランティア・市民活動ができる場を提供します	12	湖北台健康まつり	A	・台中生によるボランティア活動は、毎年50人前後参加がいて、完全に定着している。 ・看護師OBもボランティアとして測定などで活躍している。	・一般参加者の増加策が当面の課題。	継続
12 ボランティア・市民活動の情報を提供します	16	こほく台地区社協だより	A	・地区社協の事業・行事の報告、予告などの新聞を発行している。	・自治会、見守り活動などの事例紹介なども今後取り上げを検討したい。	継続

5. 安心と安全を守る取り組み

活動方針	事業名		進捗評価	地域への影響	課題	今後取組
13 「あんしんカード」(医療情報カード)の普及	1	見守りネットワーク推進事業	B	・安心カードは民生委員との連携も含め積極的に推進した。	・組織の活動バラつきを是正していきたい。 ・地域に浸透しつつある、「見守り組織交流懇談会」の活性化を図っていきたい。	拡充
14 大規模災害や感染症に備える取り組みをします	9	災害対策事業	C	・各自治会の自主防災組織との情報共有に注力した。	・地区社協たよりの紙面を活用した情宣も検討。	継続

安心とゆとりのまち 住み続けたいまちづくり

湖北・新木地区社会福祉協議会 進捗評価表

地区理念 「地域の福祉はみんなで支えよう！」

基 本 目 標	A：十分 できた	B：概ね できた	C：あまりで きなかった	D：取り組め なかった
目標1. 広げよう、つながりの輪	68%	4%		28%
目標2. 学び、理解し、共にあゆむ	67%	7%	7%	20%
目標3. 支援が必要な人たちを支える	73%	9%		18%
目標4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり	73%	9%		18%
目標5. 安心と安全を守る取り組み	50%		17%	33%

■■■今後、重要（拡充）となる事業■■■

☐こほく・あらき福祉まつり

☐高齢者見守り事業 いきいき塾

1. 広げよう、つながりの輪

我孫子湖北・新木地区社協 第6次我孫子市地域福祉活動計画進捗評価表

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
1 交流の場の提供や活動の支援をします	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・各団体の発表やブース設置により、来場者へ活動への理解を広め、地域や世代間の交流を図った。	・ホールでの発表中など、鑑賞の妨げになることがないよう、来場者の動線を検討する必要がある。	拡充
	2	地域福祉推進事業 地域お楽しみ会	A	・プロの芸能鑑賞は好評であり、地域の有志団体による発表は活動発表の場を提供できた。	・例年同じ発表内容にならないよう検討・調整していく。	継続
	3	福祉教育推進事業 世代間交流事業	A	・各種イベントにてむかしあそびブースを出展し、遊び方を教えることで交流の場を提供した。	・担い手が減少傾向にあるが、好評のため担い手を育成していく。	継続
	4	福祉教育推進事業 福祉教育推進員会議の実施	A	・福祉まつりでは、学校と協働して学生ボランティアによる司会進行や会場運営を行い、来場者との世代間交流の場の提供に繋がった。	・人事異動・委員改選の際に滞りなく引継げるよう整備する。	継続
	5	高齢者見守り事業 一人暮らし高齢者日帰りバス旅行	A	・外出が困難な独居高齢者同士の交流の場を提供し、地域内の住民の関係強化繋がった。	・参加希望者が多く、参加者（独居高齢者・担当民生委員）をしぼる対応を取っているため、開催方法を検討する。	継続

1 交流の場の提供や活動の支援をします	15	【新規】こほく・あらきウォークラリー	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	16	【新規】こほく・あらき お料理教室	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	新規	【新規】ほうかご学習室	A	・湖北小学校運営委員会の中で議題として挙がったことからことから、令和6年7月より湖北小の空き教室を活用して取り組みを始める。	・現在、20人前後の児童が利用をしている。今後、どのような形で支援していくか検討していく。	継続
2 生きがい、仲間づくりを推進します	3	福祉教育推進事業 世代間交流事業	A	・各種イベントにてむかしあそびブースを出展し、遊び方を教えることで普段交流できない世代と交流する機会を創出した。	・担い手が減少傾向にあるが、好評のため担い手を育成していく。	継続
	6	こほく・あらき健康まつり	A	・測定等を行うことで、健康に対する意識向上につなげ、生きがいや仲間づくりの動機づけを行った。	・機材の老朽化、例年同じ内容での測定のため、工夫が必要か。	継続
	7	子育て支援事業 おやっこルーム（事業統合）	A	・事業を運営する委員、参加する住民共に交流することで、コミュニティが出来た。	・子育て世代のニーズに沿った内容で開催することで、参加者の増加につなげたい。	継続
	8	【新規】高齢者見守り事業 いきいき塾	A	・既存の受講者を通じて新しい受講者が参加するなど、地域の繋がりを強化することができた。	・参加人数の変動があるため、開場確保や日数の調整を検討していく。また、長期で参加している受講者に向け、講師と内容を協議していく。	拡充

2 生きがい、仲間づくりを推進します	9	【新規】高齢者見守り事業 傾聴活動	B	・各教室事業と併せて開催することで交流の場を提供でき、地域住民同士の関係強化につながった。	・担い手をどのように確保していくかが課題となっている。	継続
	15	【新規】こほく・あらきウォークラリー	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	16	【新規】こほく・あらき お料理教室	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	17	【新規】子ども見守り事業	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・自治会既に取り組みされており、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	新規	【新規】ほうかご学習室	A	・湖北小学校運営委員会の中で議題として挙がったことからことから、令和6年7月より湖北小の空き教室を活用して取り組みを始める。	・現在、20人前後の児童が利用をしている。今後、どのような形で支援していくか検討していく。	継続
3 関係機関とのつながりを強化します	4	福祉教育推進事業 福祉教育推進員会議の実施	A	・福祉まつりや高齢者疑似体験の調整のため関係機関と連携を図った。	・人事異動・委員改選の際に滞りなく引継げるよう整備する。	継続
	6	こほく・あらき健康まつり	A	・高齢者なんでも相談室や保健センターの職員派遣を依頼することで、関係機関との連携強化に繋がった。	・機材の老朽化、例年同じ内容での測定のため工夫が必要か。	継続

3 関係機関とのつながりを強化します	16	【新規】こほく・あらき お料理教室	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	17	【新規】子ども見守り事業	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・自治会既に取り組みれており、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	新規	【新規】ほうかご学習室	A	・湖北小学校運営委員会の中で議題として挙がったことからことから、令和6年7月より湖北小の空き教室を活用して取り組みを始める。	・現在、20人前後の児童が利用をしている。今後、どのような形で支援していくか検討していく。	継続
4 福祉に関する情報を提供します	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・福祉関連施設やボランティア団体等へ参加呼び掛けすることで、参加者に地域の施設やボランティア活動を知ってもらう機会をつくった。	・地域の企業や商店にも参加を呼びかけ、更なる集客ができるようにしたい。	拡充
	6	こほく・あらき健康まつり	A	・健康に関する講演会やアドバイスを受けられる場を提供することで、地域住民の健康意識を高めることに繋がった。	・機材の老朽化、例年同じ内容での測定のため工夫が必要か。	継続
	10	こほく・あらき地区社協だより	A	・各団体の紹介や活動のインタビュー、寄稿等を依頼し、地域住民への情報提供ができた。	・担当委員が退任されたため、現任で内容の質を維持できるように検討していく必要がある。	継続

2. 学び、理解し、共にあゆむ

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
5 学習の場を提供します	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・地域の学校と協議体を持つなど連携を強化することで、子どもたちに学びの場を提供できた。	・今後も各学校との協力関係を継続していきたい。	拡充
	4	福祉教育推進事業 福祉教育推進員会議の実施	A	・福祉まつりや高齢者疑似体験の調整のため、関係各機関との連携を図った。	・人事異動・委員改選の際に滞りなく引継げるよう整備する。	継続
	6	こほく・あらき健康まつり	A	・健康に関する講演会やアドバイスを受けられる場を提供することで、地域住民の健康意識の向上に繋がった。	・機材の老朽化、例年同じ内容での測定のため工夫が必要か。	継続
	8	【新規】高齢者見守り事業 いきいき塾	A	・各種教室を開催し、学習の場を提供できた。	・参加人数の変動があるため、開場確保や日数の調整を検討していく。また、長期で参加している受講者に向け、講師と内容を協議していく。	拡充
	11	福祉教育推進事業 認知症サポーター養成講座	A	・全生徒が在学中に受講できるよう調整し、学習の場の提供に繋がった。	・受講対象を広げたいという声があるため、関係機関と連携し検討していく。	継続
	12	委員研修	B	・福祉や環境に関する施設見学を実施し、委員に学習の場を提供した。	・行き先を探すことが難しくなっている。	継続

5 学習の場を提供します	13	自治会向け認知症サポーター養成講座	C	・各自治会との調整がつかず、毎年の実施はできなかった。 また、受講希望者もあまりいなかった。	・PRを継続するとともに、ニーズを今一度確認する必要がある。	縮小
	15	【新規】こほく・あらきウォークラリー	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	16	【新規】こほく・あらき お料理教室	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	新規	【新規】ほうかご学習室	A	・湖北小学校運営委員会の中で議題として挙がったことからことから、令和6年7月より湖北小の空き教室を活用して取り組みを始める。	・現在、20人前後の児童が利用をしている。今後、どのような形で支援していくか検討していく。	継続
6 福祉教育を推進し、理解を深めます	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・各学校によるステージ発表や作品の展示を行うことで、学校活動を地域へ広めることができた。	・今後も各学校との協力関係を継続していきたい。	拡充
	3	福祉教育推進事業 世代間交流	A	・各種イベントにてむかしあそびブースを出展し、地区社協活動のPRを行った。	・担い手が減少傾向にあるが、好評のため担い手を育成していく。	継続
	4	福祉教育推進事業 福祉教育推進員会議の実施	A	・福祉まつりや高齢者疑似体験の調整のため、関係各機関との連携を図った。	・人事異動・委員改選の際に滞りなく引継げるよう整備する。	継続

6 福祉教育を推進し、 理解を深めます	11	福祉教育推進事業 認知症サポーター養成講座	A	・全生徒が在学中に受講できるよう調整し、学習の場の提供に繋がった。	・受講対象を広げたいという声があるため、関係機関と連携し検討していく。	継続
	16	【新規】こほく・あらき お料理教室	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小

3. 支援が必要な人たちを支える

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
7 見守り活動を推進します	5	高齢者見守り事業 一人暮らし高齢者日帰りバス旅行	A	・民生委員と日帰り旅行に行くことで、普段の活動に加えて関係を深める場を提供した。また、近隣住民同士の交流の場にもなった。	・参加希望者が多く、参加者（独居高齢者・担当民生委員）をしぼる対応を取っているため、開催方法を検討する。	継続
	8	【新規】高齢者見守り事業 いきいき塾	A	・既存の受講者を通じて新しい受講者が参加するなど、地域の繋がりを強化することができた。	・参加人数の変動があるため、開場確保や日数の調整を検討していく。また、長期で参加している受講者に向け、講師と内容を協議していく。	拡充
	9	【新規】高齢者見守り事業 傾聴活動	B	・各教室事業と併せて開催することで交流の場を提供でき、地域住民同士の関係強化につながった。	・担い手の確保と必要なスキル習得をどのように進めていくか検討する。	継続
	16	【新規】こほく・あらき お料理教室	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小

7 見守り活動を推進します	17	【新規】子ども見守り事業	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・自治会既に取り組まれており、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	新規	【新規】ほうかご学習室	A	・湖北小学校運営委員会の中で議題として挙げたことからことから、令和6年7月より湖北小の空き教室を活用して取り組みを始める。	・現在、20人前後の児童が利用をしている。今後、どのような形で支援していくか検討していく。	継続
8 ささえあい活動や生活支援に取り組めます	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・年度ごとに企画の見直し、改善をすることで、地域住民が参加しやすい内容にできるよう努めた。	・より多くの地域住民を巻き込んでいくことで、潜在している地域の困りごとが見つかるようにする。	拡充
9 寄付、募金運動に取り組めます	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・共同募金ブースを設置し、募金活動を行った。バザーを開催し、売上金から寄付を行った。	・引き続きイベント開催の際には募金活動を行うよう努める。	拡充
10 福祉施設や福祉団体を支援します	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・各団体の発表やブース設置により、来場者への活動の理解が広まった。	・ホールでの発表中など、来場者の同線を検討する必要がある。	拡充
	8	【新規】高齢者見守り事業 いきいき塾	A	・各種教室の講師等と協働することで連携強化を図った。	・参加人数の変動があるため、開場確保や日数の調整を検討していく。また、長期で参加している受講者に向け、講師と内容を協議していく。	拡充

10 福祉施設や福祉団体を支援します	10	こほく・あらき地区社協だより	A	・各団体の紹介や活動のインタビュー、寄稿等を依頼し、地域住民への情報提供ができた。	・担当委員が退任されたため、現任で内容の質を維持できるように検討していく必要がある。	継続
--------------------	----	----------------	---	---	--	----

4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり

活動方針	事業名		進捗評価	地域への影響	課題	今後取組
11 ボランティア・市民活動ができる場を提供します	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・福祉関連施設やボランティア団体等へ参加呼び掛けすることで、ボランティア・市民活動ができる場を提供した。	・地域の企業や商店にも参加を呼びかけていく。	拡充
	2	地域福祉事業 地域お楽しみ会	A	・プロの芸能鑑賞は好評であり、地域の有志団体による発表は活動発表の場を提供できた。	・例年同じ発表内容にならないよう検討・調整していく。	継続
	3	福祉教育推進事業 世代間交流事業	A	・各種イベントにてむかしあそびブースを出展し、ボランティア・市民活動ができる場を提供した。	・担い手が減少傾向にあるが、好評のため担い手を育成していく。	継続

11 ボランティア・市民活動ができる場を提供します	7	子育て支援事業 おやっこルーム (事業統合)	A	・事業を運営する委員、参加する住民共に交流することができ、コミュニティが出来た。	・開催内容のバリエーションが増える様検討していく。	継続
	8	【新規】高齢者見守り事業 いきいき塾	A	・委員が主体となって各教室の運営を行い、活動の場を提供した。	・参加人数の変動があるため、開場確保や日数の調整を検討していく。また、長期で参加している受講者に向け、講師と内容を協議していく。	拡充
	9	【新規】高齢者見守り事業 傾聴活動	B	・各教室事業と併せて開催することで交流の場を提供でき、地域住民同士の関係強化につながった。	・担い手をどのように確保していくかが課題である。	継続
	16	【新規】こほく・あらき お料理教室	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	17	【新規】子ども見守り事業	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・自治会既に取り組みされており、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	新規	【新規】ほうかご学習室	A	・湖北小学校運営委員会の中で議題として挙げたことからことから、令和6年7月より湖北小の空き教室を活用して取り組みを始める。	・現在、20人前後の児童が利用をしている。今後、どのような形で支援していくか検討していく。	継続

12 ボランティア・市民活動の情報を提供します	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・福祉関連施設やボランティア団体等へ参加呼び掛けることで、地域住民がボランティア・市民活動の情報が取れるよう努めた。	・地域の企業や商店にも参加を呼びかけていく。	拡充
	10	こほく・あらき地区社協だより	A	・各団体の紹介や活動のインタビュー、寄稿等を依頼し、地域住民への情報提供ができた。	・担当委員が退任されたため、現任で内容の質を維持できるように検討していく必要がある。	継続

5. 安心と安全を守る取り組み

活動方針	事業名		進捗評価	地域への影響	課題	今後取組
13 「あんしんカード」(医療情報カード)の普及	1	こほく・あらき福祉まつり	A	・受付にあんしんカードを設置し、周知を行った。	・今後もあんしんカードの普及を推進していく。	拡充
	2	地域福祉推進事業 地域お楽しみ会	A	・受付にあんしんカードを設置し、周知を行った。	・今後もあんしんカードの普及を推進していく。	継続
	14	福祉懇談会	C	・あんしんカードの事業内容に触れるテーマでの懇談会開催はできなかった。	・適宜ニーズを調査し、ニーズに沿った内容で開催していく。 ・今後の運営方法について見直しをする。	継続

14 大規模災害や感染症に備える取り組みをします	14	福祉懇談会	A	・令和6年度は「災害ボランティアセンターと地区社協の関わりについて」をテーマに開催し、災害時の市社協・地区社協の役割についてを周知することができた。	・適宜ニーズを調査し、ニーズに沿った内容で開催していく。 ・令和7年度に災害対策室を設置予定であり、今後は災害対策室で福祉懇談会を運営していきたい。	継続
	15	【新規】こほく・あらきウォークラリー	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小
	16	【新規】こほく・あらき お料理教室	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・まち協で開催している事もあり、検討はしたが実施には至らなかった。	縮小

安心とゆとりのまち 住み続けたいまちづくり

布佐地区社会福祉協議会 進捗評価表

地区理念 「地域の福祉はみんなで支えよう！」

基 本 目 標	A：十分 できた	B：概ね できた	C：あまりで きなかった	D：取り組め なかった
目標1. 広げよう、つながりの輪	58%	8%		33%
目標2. 学び、理解し、共にあゆむ	86%			14%
目標3. 支援が必要な人たちを支える	33%	33%		33%
目標4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり	100%			
目標5. 安心と安全を守る取り組み	33%	33%		33%

■■■今後、重要（拡充）となる事業■■■

☐ 学び、理解し、共に歩む この姿勢で今後の地区社協活動を進めていきたい
（健康マージャン教室、チェアヨガ教室、スマホ相談会等々）

☐ 支援が必要な人たちを支える
（民生委員、高齢者なんでも相談室、各自治会や防犯パトロール隊と情報交換や連携事業を通して進める）

1. 広げよう、つながりの輪

我孫子布佐地区社協 第6次我孫子市地域福祉活動計画進捗評価表

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
1 交流の場の提供や活動の支援をします	1	布佐地区社協まつり	A	・ふさの風と南近隣の2か所で開催しているので、地域の人が参加しやすい。	・主催者、来場者共に高齢化のため、負担のない開催方法の検討と関心の高い内容での開催を検討。	継続
	2	布佐歩記行	A	・住民同士の交流を目的とした17年継続の行事で、みんな楽しみにしている。	・高齢化により長距離歩くことが難しいため、コースや場所に配慮が必要。	継続
	3	布佐新緑まつり（布佐商興会に協賛）	D	・コロナ禍以降、実施できていない。	・ニーズの確認ができず、事業廃止となる。	廃止
	新規	布佐夜市	A	・布佐商興会より依頼があり、令和5年度に出店している。	・来年度以降も継続していく。	継続
2 生きがい、仲間づくりを推進します	4	高齢者サロン「さつきの会」「ふれあいサロン“かえで”」の支援	A	・参加者が楽しみにしている。 ・家にこもりがちな方が増えてきているため、家から出るきっかけづくりをした。 ・高齢者のコミュニティとして、関わりや生きがいづくりにつなげた。	移動手段がなく、来られない方が多いため送迎を検討。	継続
	5	子育てサロン「すくすくほっとひろば」	D	・検討をしたが実施には至らなかった。	・子どもの減少とともに保護者の移動手段が車である家庭も多く、ニーズの確認ができない。	廃止
3 関係機関とのつながりを強化します	3	布佐新緑まつり（布佐商興会に協賛）	D	・コロナ禍以降、実施できていない。	・ニーズの確認ができず、事業廃止となる。	廃止
	6	「健康」「防犯」等 布佐・新木地区高齢者なんでも相談室との共催事業	A	・終活に関しては反響あり。 ・布佐商興会とは連絡・情報交換共に密に取れている。	・防犯パトロールとの情報交換等が不足しているため、情報交換の場や方法を検討。	継続

3 関係機関とのつながりを強化します	新規	布佐夜市	A	・布佐商興会より依頼があり、令和5年度に出店している。	・来年度以降も継続していく。	継続
4 福祉に関する情報を提供します	7	施設見学会	D	・地域にある福祉施設の存在は認知・理解されてきている。	・コロナで中止になって以来未実施となっており、クリーンセンターや新設老人ホームの見学等、内容の企画検討をしている。	縮小
	8	福祉施設との情報・意見交換会（ホーム、デイサービスセンター等）	B	・定例委員会で代表者にアプローチした。	・委員が多忙な中高齢化も重なり、なかなか実施できない。	継続
	9	広報紙「布佐地区社協だより」発行	A	・小中学校を含む地域と社協の話題を発信した。 ・防犯・防災に関する注意喚起をした。	・福祉に関する情報、地域で関心の高い内容を調査し、情報提供できる媒体を作成していく。	継続

2. 学び、理解し、共にあゆむ

活動方針	事業名		進捗評価	地域への影響	課題	今後取組
5 学習の場を提供します	10	健康マージャン教室	A	・参加者に大好評。人の繋がりが広がっている。	・半年が1ターム、1年間で卒業となるが、それまでに覚えきれない方もいらっしゃる。	継続
	11	健康体操教室 ⇒チェアヨガ教室	A	・講師も好評で口コミで広がっている。 ・名称を馴染みやすいものに変更している。	・急遽中止になった時の周知対応が難しい。	継続

5 学習の場を提供します	12	高校生の子育てサロン	D	・コロナ禍以降未実施。	・未就学児の事業をやっていないため、子どもの派遣が困難であることから、宝保育園のぐるんぱクラブに引継ぎ、事業を廃止する。	廃止
	13	星空ウォッチング	A	・幼児から高齢者まで楽しめている。	・雨天時の対応。 ・夜の行事なので来場者の帰宅時の安全確保。	継続
	14	【新規】スマホ教室	A	・徐々に周知されてきて、来場者に好評をいただいている。	・PRの強化。	継続
	15	委員研修	A	・委員を対象に学習の場を提供した。	・参加者の関心の高い研修を企画する。	継続
6 福祉教育を推進し、理解を深めます	16	高齢者疑似体験、車いす体験教室	A	・学校の授業に協力する形に変更して対応した。	ボランティア集めで委員以外へのアプローチ	継続

3. 支援が必要な人たちを支える

活動方針	事業名		進捗評価	地域への影響	課題	今後取組
7 見守り活動を推進します	17	各自治会の防犯パトロール隊との情報交換	D	・定期的な懇談はできていない。 ・パトロール隊に所属している委員が数名いるため、そこから得た情報を委員全体の啓発活動に繋げることができた。	・定期（半期に1度程度）の懇談を持ちたい。 ・定例委員会で活動状況を報告してもらう。 ・高齢化が進み、悪質で物騒な事件が頻発する中、連携は重要と考える。	継続

7 見守り活動を推進します	18	民生委員児童委員との懇談	B	・定期的な懇談はできていない。 ・住民から相談を受けた際、民生委員児童委員と情報共有し、必要な支援に繋げられるよう配慮した。	・定期（半期に1度程度）の懇談を持ちたい。 ・定例委員会で活動状況を報告してもらうよう働きかける。 ・地域に潜在する多問題家庭等、支援が必要な世帯の顕在化。	継続
	19	各自治会老人会との情報交換	B	・社協の情報や催事等のチラシを老人会に配布・呼びかけをしてもらい、情報は伝わっている。	・委員を輩出していない団体との関わりを作っていく。 ・老人会側からの情報は一部しか入ってこない	継続
8 ささえあい活動や生活支援に取り組みます	20	ささえあいに向けて自治会へのアンケート	D	・コロナ禍以降、アンケートの実施ができていない。	・見守り活動で話し合った中から課題を拾って取り組む。 ・高齢化で自治会活動にも消極的な団体が増えている中、どう展開していくかを検討する。	縮小
9 寄付、募金運動に取り組みます	21	災害募金の呼び掛け	A	・広報紙を通して呼びかけることで、一定の反響はある。	・更に周知して広げていきたい。	継続
	22	赤い羽根募金の呼び掛け	A	・広報等や自治会を通して、周知はしている。	・年々募金額が減少しているため、広げていきたい。	継続
10 福祉施設や福祉団体を支援します	23	市内福祉施設の物品販売（事務所開所日&イベント開催時）	A	・物品販売を通して地域の方々が施設を知り、理解が深まっている。	・イベント開催時等に福祉施設関係者を招き、地域住民と直接かかわる機会をつくる。	継続
	24	手作りピザ教室	D	・参加していた施設通所者も施設の行事で多忙のため、2つの教室に参加することが難しいとの声があった。	・2つの料理教室の継続は困難であるため、廃止とする。	廃止
	25	手作りうどん教室	B	・参加していた施設通所者も施設の行事で多忙のため、2つの教室に参加することが難しいとの声があった。	・手作りピザ教室を廃止し、統合的な参加者確保を狙う。	継続

4. 一人ひとりが参加できる仕組みづくり

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
11 ボランティア・市民活動ができる場を提供します	26	子ども学習室や子ども食堂の支援	A	・広報紙で取り上げたこともあって、少しずつ認知度が上がり、寄付もいただいている。	・更に地域の人に知ってもらい、支援に繋げていきたい。	継続
12 ボランティア・市民活動の情報を提供します	27	てとりあ等と連携してポスター掲示や広報紙に掲載	A	・地区社協の周辺にいる方たち、会館利用者には浸透してきている。	・次の世代に繋げるために方法を模索。	継続

5. 安心と安全を守る取り組み

活動方針	事業名		進捗 評価	地域への影響	課題	今後 取組
13 「あんしんカード」(医療情報カード)の普及	28	避難訓練や自治会での防災講習会等で紹介	A	・地域住民に認知されてきている。	・情報の更新を促したい。	継続
14 大規模災害や感染症に備える取り組みをします	29	災害時のボランティアの呼び掛けや情報提供	B	・大雨等の災害時には、呼びかけに応じて協力して頂ける。	・ボランティアの高齢化。	継続
	30	感染症に対する勉強会・講習会	D	・検討したが、実施には至っていない。	・ニーズがあるので、少しずつ取り組んでいきたい。	縮小